

タレハ頗ル深遠ノ意味ヲ含ミ一句一言ト雖モ決シテ輕々看過スヘカラサルノ條ナリ

我國從來政治社團ニ於テ怒ルカ如クニ論シ狂スルカ如クニ奔走シ愛國愛世ノ志士國典ニ觸レ獄裏ニ伸吟スルニ至ルモ其ノ目的ヲ問ヘハ僅々本條數言ノ内ニ在ルモノト云フヘシ左レハ本條ハ一言半句ト雖モ善ク其ノ性質ヲ明カニシ畔域ヲ正フシ置カサルヘカラサル法條ナレハ余ハ左ノ數個ノ問題ニ就テ之レヲ論明セント欲スルナリ

- 第一 國務大臣トハ如何ナル意義ナルヤ
- 第二 國務大臣ハ何故其責メニ任スヘキヤ
- 第三 國務大臣ハ如何ナル所爲ニ對シテ其ノ責メニ任スヘキヤ
- 第四 國務大臣ハ誰レニ對シテ責任ヲ負フヤ

第五 國務大臣ノ責任ヲ實行スルハ如何ナル權利ニ屬スルヤ

第一 國務大臣トハ如何ナル意義ナルヤ

國務大臣ハ何時ニテモ帝國議會ニ出席シテ發言スルノ權利アリ又議會ノ質問ニ答フルノ義務アリ而シテ其行ヒニ付テハ其責メニ任スヘキモノナレハ其權任大ニシテ其責メ重シト云フヘシ故ニ國務大臣ト云ヘル名稱ノ内ニハ如何官職ヲ包含スルヤヲ明瞭ニ定メ置クハ必要ナリトス

按スルニ國務大臣トハ國家ノ施政事務ヲ掌理スル處ノ大臣ト云ヘル意義ニシテ即チ內閣大臣ヲ言指スルモノナリ內閣トハ各大臣集會シテ天皇陛下ノ面前ニ於テ政治ニ關スルコト及ヒ行政ニ關スルコトヲ商議奏上スル處トス明治十八年十二月時ノ太政大臣三條實美公ノ奏議ニ依テ今日ノ內閣官制ヲ改革セラレタリ其奏議中ニ曰ク「太

政官諸職ヲ廢シ内閣ヲ以テ宰臣會議御前ニ事ヲ奏スルノ處トシ万機ノ政專ラ簡捷敏活ヲ主トシ諸宰臣入テハ(内閣ニ)大政ニ參シ(天皇陛下ノ掌ラセラル、施政權ニ參スルヲ云フ)出テハ各部(各大臣受持ノ行政省)ノ職ニ就キ均シク陛下ノ手足耳目タリ(云々トアリ)其他奏議中ニ各省大臣ヲ以テ内閣ヲ組織スルノ明文アルヲ見レハ各省大臣ハ即チ内閣大臣ニシテ内閣大臣ト各省大臣トハ同一物ニシテ更ニ區別スル處ロナク各省大臣ハ即チ國務大臣タリト云フヘキカ如シ然リト雖モ内閣ト各行政省トハ其職務性質ニ於テ各相異ナリ互ニ獨立シタルモノニシテ仮令内閣大臣ノ更迭アルモ各行政省ノ事務ニハ更ニ變革ヲ來サ、ル如キモノナリトス

明治十九年二月廿六日勅令第二號ヲ以テ行政省ヲ外務省、内務省、大藏省、陸軍省、海軍省、司法省、文部省、農商務省、遞信省、ノ九省ト定メラレ

其他ニ宮内省ナルモノアリト雖モ是レハ帝室ニ關スル事ヲ掌ルモノニシテ行政省ニアラサルナリ

故ニ今日我カ内閣ハ九省ノ大臣ヲ以テ組織シタルモノニシテ國務大臣トハ即チ此ノ九省ノ大臣ト内閣總理大臣トヲ指稱スルモノトス右ノ外大臣ノ名稱ヲ有スルモノニ内大臣宮内大臣アリト雖モ内大臣ハ御璽國璽ヲ尙藏シ且ツ常侍輔弼シ宮中顧問官ノ議事ヲ總提スルノ職ニシテ内閣大臣ニアラス又宮内大臣モ行政大臣ニアラサルヲ以テ明治十八年十二月二十二日大政官達第六十九號ヲ以テ組織シタル内閣員中ヨリ省キタリ故ニ此ノ兩大臣ハ國務大臣ニアラサルモノトス

然ルニ其后特旨ヲ以テ此ノ兩大臣及樞密院議長モ内閣ニ參例スルノ特權ヲ與ヘラレタリ是ニ於テ此兩大臣及ヒ議長モ國務大臣ナル

ヤ否ヤノ問題生セサルヲ得ス此問題ノ決定如何ハ國務大臣ノ特權責任ニ關スル重大ナル結果ヲ生スルモノトス一見スルキハ兩大臣樞密院議長モ尙ホ國務大臣ナリト決定セサルヘカラサルニ似タリ蓋シ内閣ニ入テ大政ニ參議シ御前ニ事ヲ奏スルノ職タル宜敷責任ヲ負担スルモノナラサルヘカラス既ニ其責メニ任スヘシトセハ其職ヲ全タカラシメンカタメニハ亦タ相當ノ特權ヲモ有セサルヘカラサルハ當然ノコトナレハナリ然レモ決シテ之レヲ國務大臣ト云フヘラカサルナリ固ヨリ天皇ニ事ヲ奏スルニ當リテハ責任ヲ有セサルヘカラスト雖モ兩大臣議長ニ於テ内閣ニ列スルコトヲ許サレタルハ兩大臣ナリ議長ナリトシテ許サレタルニアラスシテ三條公ナルカ故伊藤伯ナルカ故土方子ナルカ故ニ天皇ノ信用ヲ享テ其人ニ對スルノ特旨ニ出テタルモノナレハ決テ之レヲ國務大臣ナリト云

フヘカラサルナリ
第二 國務大臣ハ何故其ノ責メニ任スルヤ
大政ニ參シテ萬機ヲ奏聞シ施政權即チ天皇陛下ヲ輔弼シ奉ル處ノ國務大臣カ其ノ責メニ任スヘキコトハ立憲政治ノ國ニ於テ欠クヘカラサル要件ノ一ニシテ天皇不保任ノ主義ニ對シ必然ノ補足至要ノ匡正方法ナリ是レニ依テ立法權ノ獨立ヲ保持シ憲法ヲ以テ保障シタル臣民ノ權利自由ヲ恒久ニ享有セシムルコトヲ得ル者トスロシ一氏曾テ曰宰相責任ノ法ナクシテ君主ノ侵スヘカラサルコトノミノ法アル政治ハ則テ擅制ナリト此ノ主義タル立憲政体至ル處ノ邦國トシテ憲法ニ明載セサルハナク學士識者ノ腦髓モ亦タ既ニ之レヲ憾銘シテ敢テ疑ハサルナリ然リト雖トモ大臣責任ノ主義ハ君主侵スヘカラサルノ主義ト矛盾スルト論スルモノアリ其說ニ曰責任ヲ機

關師タル君主ニ歸セシテ機關タル大臣ニ歸スルハ不當ナリト是レ思ハサルノ甚クシキ論ナリ若シ其機關タルヤ死物ニシテ無智頑鈍ノ一無氣物ナラシメハ此說或ハ理アラソ然レモ此ノ機關タルヤ善ク行爲ノ性質其關係ノ如何ヲ觀察シテ其是非ニ從ヒ或ハ使用ヲ受ケ或ハ之レヲ辭スルコトノ自由アル活物タルヲ以テ道理ヲ討テ情義ニ問フモ其ノ責任ヲ要スヘキト至當ナリ不保任タルノ帝室ヲ輔弼スヘキ大臣ハ其命令ヲ服膺スルト否トヲ判別スルノ自由アリ其命令已レノ良心ニ戻ルアラハ謹ンテ其ノ職ヲ辭スヘキノミ其當否如何ハ史乘ノ后世ニ訴フヘク公義輿論ノ判斷スヘシ若シ職權ニ眷戀シテ法律ノ條款ヲ忘却シ條理ノ正道ニ惑フコトアラハ毫モ其責任ノ懲戒ヲ仮借スルノ理由ナキナリ

第三 國務大臣ハ如何ナル所爲ニ對シテ其責メヲ任スル

本條ニ曰國務大臣ハ天皇ヲ輔弼シ云々ト即チ國務大臣ハ施政權ヲ補佐シ万機ヲ整理シテ法律ノ執行ヲ掌ルモノナリ故ニ國務大臣タルモノ、犯罪ニ二個ノ性質アリテ施政權ノ秩序ヲ乱シ法律ニ反シテ徵稅ヲ爲シ不正ノ國費ノ支拂ヲ命令シ憲法ヲ犯シ權限ヲ潛越シ外交ヲ誤リ不理ノ戰ヲ宣ヘ私ニ裁判ノ法式ヲ變更スルカ如キハ職務上ニ於テ犯セル公罪ナリ盜賊犯姦重婚殺傷ノ如キハ私罪ナリ私罪ハ元ヨリ通常法律ニ依テ責罰スヘク公罪ハ他ノ方法ヲ以テ責罰スヘシ國務大臣タル資格ヲ以テ責任スヘキノ責任即チ是ナリロシ

一氏曰宰相ノ惡行悉ク宰相ノ犯罪ニアラスト

英國ニ於テハ既ニ四百年以來大臣責任ノ主義ヲ採リタリシカ常ニ職務上ノ犯罪即チ公罪ノミヲ以テ其責メニ任セシメタリ近時ロ

百八十八
バルメルソン氏大宰相ノ地位ニ在テ職務ニ關セサル私罪ノ爲メ通常法律ニ依テ告訴セラレタルノ實例アリ佛國政治家コンスタンズ氏曰毫モ大臣ノ職務ニ關セサル犯罪ヲ處スル爲メ議院ノ干涉スルハ不當ナリト

是等ハ能ク國務大臣ノ當ニ其責任ニ任スヘキノ所爲ヲ明カニスルモノニシテ職務ニ關セサル私罪ニ就テ通常刑法上ノ制裁ヲ被ルヘキヲ一般人民ト異ナル處ナキナリ其ノ大臣タルカタメ高等法院ノ管轄ニ屬スルカ如キハ全ク茲ニ關セザル處ナリ
以上ハ大臣刑事上ノ責任ナリ民事上ノ責任ニ付テモ亦均ク公私ノ區別ナカルヘカラス大臣ト雖モ人ニ損害ヲ被ラセタルキハ常人ト同シク賠償ノ責メニ任セサルヘカラス蓋シ何人ト雖モ自己ノ所爲ニ因テ他人ニ損害ヲ被ラシメタルキハ之レヲ償ハサルヘカラスト

ハ民法上不抜ノ原則ナレハナリ
惟ク憲法上ニ於テ論スヘキハ大臣政治上ノ所爲ニ因テ人ニ被ラシメタル責任ハ何レノ度ニ及ホスヘキヤノ疑問アルノミ此問題ニ就テハ歐洲學者間紛々トシテ其論未ダ決セサルカ如シ然レモ多クノ學者ノ論スル處ハ大臣職務上ノ所爲ニ付民事上ノ責メ即チ損害賠償ハ重罪輕罪ノ性質アル所爲ヨリ生シタル損害ハ勿論犯罪ノ性質ナキモ他人ニ損害ヲ被ラムルノ意ヲ以テ殊更ニ爲シタル損害トノ責メニ止マリテ單ニ損害ヲ被ラシメタルノ一事ヲ以テ其責メニ任セシムヘカラストノ説ニ傾キタルカ如シ故ニ此決定ニ依ルトキハ例ヘハ大臣擅ニ威權ヲ用ヒ人民ニ對シテ土地物件金員等ノ獻納ヲ命令スルカ如キ犯罪ノ性質アル所爲ヲ以テ人民ニ被ラシメタル損害ハ勿論建築者ヲ害センカタメ爾后官廳ノ建築ハ練化石造ナリト

ノ命令ヲ發シ無益ノ練化石等ヲ用意セシメ后此ノ命令ヲ變更シテ
 ル如キ全ク犯罪ノ性質ナシト雖モ其損害ハ償ハサルヘカラス然レ
 帝國議會ノ議決又ハ其他會計上等ノ都合ニ依リ此命令ヲ變更シ
 タル如キ故意ナキ場合ニ於テハ仮令建築者ニ損害アルモ其責メニ
 任スルニ及ハサルナリ
 若シ一己人ノ所爲トシテ見ルルハ此ノ最后ノ場合ト雖モ其責メニ
 任セサルヘカラサルカ故ニ外貌上ヨリ一見スルルハ大臣ニ對シテ
 過當ノ特典アルカ如キ觀ナキ能ハスト雖モ行事ノ性質ト關係トニ
 因テ熟慮スルルハ國益公利ノ爲メ止ムヘカラサルノ法タルヲ諒
 察スヘシ抑大臣ノ處爲ハ私益ノ爲メニアラスシテ國益ノ爲メナリ
 奚ク公務上人民ニ蒙ラシメタル損害チ一己人ノ所爲ト同一視ス
 ルノ道理アラソヤ又公益上ヨリ論スルモ必ス此ノ區別ナカルヘカ

ラズ今若シ大臣ノ行務上通常民事上ノ責メニ任スヘシトセハ大臣
 ノ一舉一動常ニ民事上ノ責メヲ恐レ躊躇ノ心念頭ヲ離レス改良善
 進ノ行ヒハ毫モ爲シ能ハサルニ至ルヘシ何トナレハ凡ソ國家ノ事
 一令一改革トシテ少數人民ノ私益ヲ害シ又ハ失望取敗等ノ結果ア
 ラサルモノナケレハナリ果シ如斯ナリトセハ世ノ改明進歩ヲ害ス
 ルト如何ンヤ是レ大臣無意過失ノ責メニ任セスト云フ所以ナリ
 以上論スル處ヲ要スルニ大臣ノ責メハ職務上ヨリ生スル刑事ノ犯
 罪ト惡意ニ因テ生スル民事賠償トニ止マリ職務外ノ所爲ニ付テハ
 民事刑事ノ別ナク通常法律ノ制裁ニ屬スヘキモノトス
 本條ノ責任ハ大臣自ラ爲シタル行事ノミニ止マラス部下ノ官吏ニ
 命令訓達シテ行ハシメタル所爲若クハ官吏ノ處分ヲ點許不問ニ措
 キ若クハ等閑怠慢ニ付シタル結果ニ付テモ亦其責メニ任セサル

ヘカラス然レ其部下ノ官吏モ亦タ決メ其責メヲ免カルトテ得サルハ勿論ナリトス

余ハ本項ノ論ヲ終ルニ臨ミ曾テ第八條ノ下ニ於テ殘シ置キタル天皇法律ニ代ル勅令ヲ發セラレ次期ノ議會ニ於テ議院ノ承諾ヲ與ヘサリシハ其ノ勅令ニ副署シタル國務大臣ハ其責メニ任スヘキヤ否ヤノ問題ヲ講究セント欲スルナリ此ノ問題タル惟リ第八條ニ於テ必要ナルノミナラス第七十條ニ於テモ亦タ必ス生スヘキ者トス按スルニ本問ノ場合ニ於テ議會カ此ノ勅令ヲ承諾セサルハ公共保安ノ上ニ於テ斯ノ如キ勅令ヲ發スルノ必要ナキニ發表セリ即チ第八條若シハ第七十條ニ規定シタル緊急必要ノ場合ニアラサルニ此ノ非常處分ヲ爲シタリトスルノ理由ナル歟又ハ發令ノ當時ハ眞ニ必要ノ事情アリシモ時世ノ變遷今日ニ至リテハ早既ニ此ノ勅令ノ

効力ヲ存セシムルノ必要ナシトスルノ理由ニ基ク歟ノ二者ニ外ナラサルヘシ果シ然リトセハ前者ノ理由ヲ以テ議院ニ否認セラレタル勅令ハ正ニ是レ國務大臣ノ失政越權ノ處爲ニシテ立法權ノ議定權ヲ侵害シタル者ナレハ理論上必ス其ノ責メヲ辭スヘカラサル者ナリ然リト雖モ後者ノ理由ヲ以テ否認セラレタル場合ニ於テハ勅令發表ノ當時ニ在テハ實ニ緊急ノ需用ニ應ノ必要ノ權道ヲ施シタル者ナレハ決メ國務大臣ヲ責ムヘキノ道理アラサルモノト信スルナリ

第四 國務大臣ハ誰レニ對シテ責メヲ負フヤ

本項ノ問題ヲ決センニハ先ツ國務大臣ノ責メニハ如何ナル制裁アルヤノ点ヲ明カニセサルヘカラス今各國ニ於テ現ニ行ハル、處ノ有様及ヒ學者ニ於テ唱フル處ニヨレハ二個ノ制裁アルカ如シ第一

ハ刑法上ノ制裁ナリ是レハ學者ノ論スル處ニシテ未タ實際ニ之レヲ實行シタル國アルヲ見ス今學者ノ論スル處ヲ尋ヌルニ國務大臣ハ其ノ政治上ノ所爲ニシテ重大ナル失政ニ對シテハ刑法上ノ責罰ヲ受ケサルヘカラスト然レモ實際ニ於テハ職務外ノ犯罪ニ付テハ固ヨリ普通刑法ノ適用ニ依テ罰スルト雖モ單ニ政治ノ方法惡シカリントノ理由ヲ以テ處刑セラレタルノ例ハアラサルナリ

第二ハ政治上ノ制裁是ナリ此ノ制裁ハ國務大臣ニ於テ辭表ヲ呈出シテ内閣ヲ退クノミトス此ノ制裁ハ現ニ各國ニ於テ行ハル、處ニシテ余カ茲ニ論セントスルモノモ亦タ此点ニ在リトス

此ノ責任ハ大臣カ議院ヨリ出ルト否ト即チ政黨内閣ナルト帝室内閣ナルトニ依テ議院即チ立法權ニ對シテ責メヲ負フアリ又施政權即チ天皇ニ對シテ責メヲ負フアリ或ハ天皇ト議院トニ對シテ

責メヲ負フアリトス

大臣議院ヨリ出ル場合ニ於テハ内閣ヨリ提出シタル一國政治ノ方針又ハ大主義等ニ關スル法案ニシテ議院ニ否決セラル、時ハ大臣ハ舉テ辭職スヘキモノトス之レヲ政黨内閣ト云フ又大臣議院ヨリ出テス單ニ施政權ニ對シテノミ責任ヲ有スルキハ施政權ニ對シテ辭表ヲ呈出スルノミトス此場合ニ於テハ其責任ヲ犯シタル事柄ノ如何ニヨリテ各大臣連合ニテ責メヲ負フアリ又各自ニ責メヲ負フアリトス即チ換語スレハ大臣ノ責任ハ其ノ勅詔又ハ命令ニ副署シタル大臣ノミ責メニ任スルモノトス之レヲ帝室内閣ト云フ

右ノ區別ハ政体ノ如何ニ因テモ異ナルモノニシテ共和政体ノ國ニ於テハ第二ノ責任ノ如シ大統領ノミニ對シテ責メヲ負フ例ナキノ

ミナラス北米合衆國ノ大統領ノ如キハ大統領自ラ議院ニ對シテ責
 メニ任シ大臣ハ却チ無責任ナルヲアリ斯ル國ニ於テハ大臣ハ其實
 大統領ノ書記官タルニ過キサルナリ然レモ普通ニ在テハ共和國ノ
 各大臣ハ議院ニ對シテ運合ノ責メニ任スルモノトス
 君治政体ノ國ニ於テハ第二ノ責任ナルヲ多シト雖モ又第一ノ責任
 ナルヲモアリ又或ハ第一第二ノ責任ヲ用ヒ各大臣ハ天皇ト議院ト
 ニ對シテ責メヲ負フヲアリ則チ英國ノ如キ是レナリ共和國ト雖モ
 佛國ノ如キ近來此ノ方法ヲ用ユルカ如シ政体ノ如何ヲ問ハス又主
 權天皇ニ在ルト國民ニ在ルトヲ論セス總テ無責任ナル施政權ハ正
 理公道即チ主權ニ背キタル國務大臣ヲシテ政ヲ行ハシム可カラサ
 ルヲ以テ大臣ノ政治正理公道ニ反スルモノト認ムルハ直ニ大臣

ヲ罷免セサルヘカラス故ニ民主國ニ在テハ議院ノ議決ヲ以テ正理
 公道即チ主權ヲ代表シタルモノトスルカ故ニ内閣ノ發議遂ニ否決
 セラレタルハ大臣ハ主權(或ハ民望トモ云フ)ニ背キタルモノナリ
 トシテ直ニ辭職セサルヘカラス然レモ時トシテ議院ノ議決眞ニ民
 望ヲ代表セザルヲアリ然ルハ施政權ハ斷然議院ヲ解散シテ更ニ
 民望ヲ代表シタル新代議士ヲ召集シテ議決セシムルヲ得再選舉
 ニ於テモ猶ホ舊議員過半ヲ占ムルハ施政者ハ必ス大臣ヲ罷免セ
 サルヘカラス之レ主權者ニ勝チ讓ルモノトス
 主權天皇ニ在ル國ニ於テハ正理公道天皇ニ在リトスルカ故ニ天皇
 ハ議院ヲ解散スルモ又大臣ヲ罷免スルモ自由ナリトス
 君主國ニ於テハ正理公道天皇ニ在リ云々ト云フト雖モ余ハ決シ佛
 王ルイ十四世ノ如ク國ハ我レナリ我レ望ム處ハ國望ムナリト云フ

如キ暴政ヲ爲スヲ得ルト云フニアラス故ニ天皇ハ猥リニ議院ヲ解散シテ暴政ヲ行フヘシトノ恐レハアラサルナリ何トナレハ君主權即チ人爲ノ主宰權モ必ス神聖的ノ主宰權ヲ侵スヲ得サルモノナレハ若シ之レヲ侵スヲアレハ此ノ神主權ノ爲メニ革命其他ノ制裁ヲ蒙リ遂ニルイ十六世王ノ轍ヲ踏マサルヘカラサルニ至ルモノナレハナリ

右ハ各國ノ實例ニ徴シ學理ニ照シテ論スルニ過キス我國ニ於テハ天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權即チ君主權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依テ萬事ヲ國務大臣及帝國議會ニ委托セラレ陛下ハ其上部ニ在テ可トセラル、モノヲ探テ万機ヲ行ハセラル、ニアルモノニシテ其採用セラレタルモノニシテ若シ不可ナリシト雖モ陛下ハ其責メニ任セラレシテ斯ノ如ク不可ナルヲ天皇ニ上奏シタル者カ

其責メニ任スヘキモノトス然リ而シテ其ノ責メハ何人ニ對シテ負フモノナルヤト云フニ付テハ則チ本項ノ主タル問題ナリトス今第五十五條ヲ見ルニ只タ其責メニ任ストアルノミニシテ議院ニ對スルヤ天皇ニ對スルヤ明カナラス然リト雖モ之レヲ沿革ニ逆テ尋ヌルハ最モ易々ノ業ナリトス明治十八年以前ニ在テハ太政大臣ノ布告ニ各省主務ノ卿ニ於テ副署シタルノ例アリ是其ノ責任ヲ確認シタルノ一證ナリト雖モ未タ法律上明カニ其責メアルヲ決定メタルモノナシ始メテ之レヲ明定シタルハ明治十九年二月二十六日勅令第二号各省官制通則第二條ニ各省大臣ハ其ノ主任ノ事務及ヒ今后法律勅令ニ依リ主任ニ屬スル事務ニ付テハ其責メニ任スヘシトアル即チ是ナリ此ノ勅令ニ因ルキハ大臣ニ責任アルト其責メハ各大臣主任ノ事務ニ付テノヨ

責任スヘキモノナルヲ知ル而シテ其責メハ誰レニ對スルヤト云フニ無論議會未タ開ケサル當時ナルヲ以テ天皇陛下ニ對スル責メナルヲ明カナリ是レ其沿革ナリトス

既ニ此沿革アリ今俄カニ此ノ沿革ヲ改メント欲セハ必ス之レヲ明言セサルヘカラス然ルニ本條之レヲ徵スヘキモノナシ故ニ余ハ國務大臣ハ天皇ニ對シテ各自主任ノ事務ニ付キ其責メニ任スヘキモノニシテ即チ上文ニ論シタル第二ノ責任ヲ負フモノナリト斷言スルニ躊躇セサルナリ

近時國務大臣ノ責任ノ連合ナランヲ望ムノ論者多シ故ニ余ハ斯ク歴然タル沿革ノ在ルアリテ明カナルニモ拘ラヌ今學理ニ徵シテ之ヲ述ヘン我憲法ノ主義ニシテ政黨内閣ヲ組織シ國務大臣ハ議院ヨリ出ルニ在リトスレハ大臣ノ責任ハ議院ニ對シ且ツ連合ナルヘ

キヲハ既ニ述ヘタル處ノ如シト雖モ如何ニセシ我憲法ノ主義ハ内閣ヲシテ毫モ議院ト關係ナカレシメ其責任ハ只ク天皇ニ對シテノミ負フモノナルヲ殊ニ近時余輩ノ聞ク處ニハ樞密院議長伊藤伯ハ各府縣會議長ニ對シテ我カ内閣ハ政黨ノ外ニ立テ政事ヲ行フノ主義ナルヲ明言セラレタリト既ニ内閣ハ議院ニ對シテ關係ヲ保ジ又責メヲ負ハストスル以上ハ其責メモ亦タ連合ナラサルヘカラスルノ要ナキナリ然レモ凡ソ大臣ノ職務ニシテ全國一般ノ政事ニ關スル事件ト主務担任ニ屬スル一部分ノ事務トアリ而シテ國務大臣協議ニ出ル處分ノ責メチ一人ニ負ハシムルノ理ナシ又各大臣一省限リ主務担任ノ處分チ他ノ各大臣ニ責ムル亦タ不當ナリ故ニ我カ國務大臣ノ責任ハ一大臣ノ責任モアルヘク又數大臣又ハ全内閣連合ノ場合モアルヘシ要スルニ其ノ處分事伴ノ性質ニ據リ

勅令又ハ命令ニ副署シタル大臣ノミ其責メニ任スルモノトス

第五 國務大臣ノ責任ヲ實行スルハ如何ナル權利ニ屬スルヤ
國務大臣ノ責任ノ實行ヲ掌ルハ國ニ依テモ異ナルヘシト雖モ各國
代議政体ノ國ニ在テハ概シテ代議院ニ於テ此ノ權利有スルカ如シ
佛國ノ現行憲法即チ千八百七十五年ノ憲法ニ依レハ大統領ハ施政
上ノ責任ヲ有セスシテ責任大臣ヲ存シ代議院ノ多數ニ從テ内閣ヲ
更迭セシムルノ法トシ又北米合衆國ノ大統領ハ自ラ責任ヲ以テ施
政權ヲ行ヒ代議院ハ非常ノ事故ニ依リ大統領ヲ責問スルコトハナ
レリ其他共和政体ナルト君治政体ナルトヲ問ハス内閣ノ失政ヲ告
訴スルノ權利代議院ニ屬セシムルヲ以テ普通トス英國ノ如キ亦タ
其一例ナリ憲法ノ完全ナルト國內ノ隆福ナルトヲ以テ世人ノ欽慕
スル日耳義帝國ノ憲法ニ於テモ亦タ大臣ヲ告訴スルノ權利代議院

ニ與ヘタリ其憲法第九十條ニ曰代民院ハ宰相ヲ告訴シ之レヲ大審
院ニ送付ス○大審院專ラ此ノ裁判ノ權利有シ各局相會シテ之レヲ
裁判ス但シ被害者ハ民事上ノ私訴ヲ爲シ及ヒ宰相其職務外ニ於テ
犯シタル重罪輕罪ニ就キ特別ノ方法ヲ以テ規定スベキ處ハ格別ナ
リトス○宰相責任ノ場合宰相ヲ處スヘキノ刑及代民院ニ於テ許可
シタル告訴若クハ被害者ノ告訴ニ付テノ規程ハ法律ヲ以テ之レヲ
定ムトアリテ之レヲ解釋スルモノ、曰大臣ヲ告訴スルノ權利上院
ニ與ヘサル、其設立ノ主旨調停保守ヲ主トスルニ在テ且上院議員
タルモノハ年長ナルト富有ナルトヲ要スルノ條件アルニ因レリ代
民院ハ大臣ノ不能力ト不正實及ヒ怠慢邪惡トヲ識別スルノ識力ヲ
有シ一般人民ニ接近シ其利害ヲ熟知シ已ムヲ得サルニ當テハ極メ
テ重大ナル彈劾權ヲ行フカクメ十分ノ担力ヲ有スルモノト看做シ

タリ英米佛ニ於テ下院ノミ此ノ權ヲ有セリ云々ト要スルニ西洋
 代議政体ノ諸邦國ニ於テ大臣ヲ彈劾スルノ權ハ概シテ立法權ニ屬
 シテ施政權ニ屬セスト云フヘシ實ニ此彈劾權ノ立法權ニ屬スルト
 否ナトハ立法權ノ施政權ニ對スル權衡上大ニ其權力ニ差ヲ生スル
 モノニシテ我國亦ク彈劾權ノ議院ニ屬センコトヲ論スルモノ多シ故
 ニ余ハ我方憲法上立法權即チ議院ハ彈劾權ヲ有スルヤ否ヤ又之レ
 ニ代ルヘキ他ノ方法ヲ有スルヤ否ヤヲ探求スルニ先クチ抑々此彈
 劾權ナルモノハ大臣ノ責任即チ職務上ノ犯罪ヲ告訴スルノ單一ノ
 方法ナルヤ又ハ他ニモ之レヲ告訴スル善良ノ方法アルヤヲ論セン
 按スルニ彈劾權ハ犯罪ヲ公訴スルノ一方法タルニ過キス今暫ク一
 般ノ場合ニ就テ各國普通ノ犯罪ヲ公訴スル有様如何ヲ見ルニ檢事
 ト名ツクル一種ノ官吏カ社會公衆ニ代テ公訴ヲ行フコトヲ以テ原則

トスルカ如シ我國ニ在テモ亦タ然リトス上古羅馬ニ至ルマテノ時
 代ニ於テハ強盜ノ如ク人民直接ニ被害者トナル犯罪ニ付テハ被害
 者又ハ其親族等ニ於テ刑事ノ原告人トナリテ公訴ヲ行ヘリ又謀叛
 罪宗教ニ關スル罪及ヒ殺人罪ノ如キ一般ノ公益ヲ害スル大罪ニ付
 テハ被害者本人ハ勿論何人ト雖モ公訴ヲ起スコトヲ得タリ是ヲ名ク
 テ彈劾方法ト云フ是レ公訴ノ濫觴ナリ當時各人民ニ彈劾權ヲ與フ
 ルノ理由ハ社會ノ各人ハ社會ヲ保存スルタメ各自力ヲ尽スノ責
 メアリ故ニ全社會ニ害ヲ及ホス大罪ニ付テハ何人モ之レヲ公訴ス
 ルノ權利アリト云フニ在リ然ルニ此方法タル或ハ犯人慄慄ナルカ
 故ニ後難ヲ畏レテ之レヲ訴フルモノナクシテ積惡大罪者モ其ノ刑
 罰ヲ免カレ或ハ金力ヲ以テ証人ヲ買ヒ無辜ヲ訴ヘテ宿怨ヲ晴スカ
 如キ弊ヲ生シ遂ニ彈劾法ノ勢力地ニ墜ルニ至レリ故チ以テ此弊ヲ

矯正セシカクメ更ニ一クノ慣習法ヲ生シ司法官躬ラ職權ヲ以テ犯人ヲ訴フルコトナレリ之レヲ糾問方法ト云ヘリ佛國王權ノ稍々盛ナルニ及ンテ王家ノ代官職權ヲ以テ訴ヲ起スノ社會ニ利益アルコトヲ悟リ益此ノ方法ヲ擴張シ漸ク十六世紀ノ始メニ至リテ公然之レヲ法令ニ認メ一種ノ官吏ヲシテ彈劾ノ權ヲ行ハシムルコトナレリ是レ檢事ノ由來ナリトス

現時歐洲各國多クハ糾問方法ヲ用ヒ彈劾權ハ檢事專ハラ之レヲ行フコト、セリ獨リ英國ハ今日ニ尙ホ彈劾方法ヲ以テ公訴ノ原則トシ各人民ニ於テ犯罪ヲ彈劾スルコト爲セリ要スルニ犯罪公訴ノ方法ニ付テハ彈劾方法ト糾問方法トノ二種ニシテ一ハ各人民自ラ犯罪ヲ公訴シ一ハ檢事即チ施政權ノ代官ニ托シテ公訴ヲ爲サシムルモノトス

右ハ通常犯罪ノ公訴方法ナリ而シテ大臣ノ犯罪ヲ公訴スルノ方法ハ既ニ述ヘタルカ如ク各國概チ彈劾方法ヲ用ヒ議院自ラ公訴ヲ行ヒ敢テ之レヲ施政權ニ委チサルナリ然レモ道理上ヨリ之ヲ云ヘハ大臣ヲ公訴スルニモ尙ホ糾問方法ヲ用ヒテ施政權即チ天皇又ハ大統領自ラ公訴ヲ起スノ方法アリト云フヲ得ヘシ故ニ彈劾權ハ大臣ヲ公訴スルノ只ターノ方法ナリトハ云フヘカラサルナリ

今ヤ我カ國ニ於テ國務大臣ノ犯罪ヲ公訴スルノ權ハ立法權ニ屬スルヤ將タ施政權ニ屬スルヤヲ尋ヌルニ當リ憲法ノ全編ヲ通覽スルニ兩院即チ立法權ニ於テ之レヲ有スルコトヲ認許シタルノ明文アルヲ見ス而シテ國務大臣ハ天皇陛下ニ對シテ責任ヲ負ヒ天皇陛下ハ萬權ノ綱ヲ掌リ居ラル、コナレハ此ノ權モ亦タ天皇陛下親ラ掌ラレ躬ラ公訴ヲ起シテ御親裁セラル、ノ主義ニ基キタルモノナラン

ト思考スルナリ果シテ然ルキハ我國ニ於テ國務大臣ヲ公訴スルノ方法ハ彈劾方法ニアラスシテ即チ往時行ハレタル處ノ糾問方法ナリト斷定セサルヘカラサルナリ

斯ク論定スルキハ人或ハ曰ハン果シテ論決スルカ如クナリトセハ國務大臣ノ責任ハ遂ニ有名無實ノ結果アラント是レ決シテ然ラス立法權ハ顯ハニ彈劾權ヲ有セスト雖正隱然之レト殆ント價值ヲ同フスル處ノ穩順ニシテ鞏固ナル一ケノ公訴方法ヲ有セリ何ソヤ曰ク余カ後段ニ論スル如ク立法權ハ施政權ノ行爲ヲ調査スルノ權ヲ有シ政府ニ對シテ質問ヲ爲シ(議院法第十章)又上奏ヲ爲スノ權ヲ有シ(憲法第四十九條)且ツ兩院ノ議長ハ議院ノ總代トシテ謁見ヲ請ヒ親シク上奏ノ主意ヲ上言スルコトヲ得(議院法第五十一條)以上ハ兩院ハ苟モ權利ノ許ス限リ臣民タルノ本分ヲ喪失サル限リハ正忠以テ

國民タルノ本分ヲ尽スヘケレハ賢明ナル天皇陛下何ソ之レヲ採納セラレサルノ理アラシヤ況ンヤ天皇陛下ノ傍ラニハ志力共ニ完備シタル樞密顧問官在テ諮詢ニ答ヘ奉リテ御親裁ヲ輔クニ於ケル乎之レ余カ穩順ニシテ鞏固ナル公訴方法ト云フ所以ニシテ忠君愛民ノ情互ニ深ク萬世一系ノ帝室ヲ戴キタル神聖國タルノ本領ヲ保チタル上奏權ヲ以テ時トシテ殺風景ノ有様ヲ生スルコトアルヘキ彈劾權ニ代ユルコトヲ得タルハ實ニ國民タルモノ一榮譽ト云ハサルヘカラサルナリ

附 調査ノ權

余ハ總論ニ於テ立法權ハ法案ヲ議定スルノ外施政權ヲ監督スルト云フ緊要ナル權利即チ調査ノ權アルコトヲ述ヘ而シテ帝國議會ノ論ヲ結フニ當リ本章即チ第五十五條ノ下ニ於テ之レヲ論センコトヲ

約セリ今ヤ此ノ約ヲ履行スヘキノ時ニ至レリ
 按スルニ調査權ノトタル恰モ警察權ノ司法行政ノ而警察ヲ兼帶シ
 テ國家ヲ保衛スルト異ナラス即チ施政權ノ怠慢擅私ヲ監察シテ過
 チヲ未然ニ防クノ効力ハ猶ホ行政警察ノ國家ニ於ケルカ如ク又施
 政權ノ過失ヲ搜查糺明シテ彈劾スヘキハ之レヲ彈劾スルハ猶ホ司
 法警察ノ犯罪搜查處分ノ効ニ於ケルカ如トシ故ニ立法權ニ於テ内
 閣大臣ヲ彈劾スルノ權ヲ有スル邦國ノ憲法ニ於テハ立法權ニ調査
 權アルトチ認メサルモノハアテサルナリ蓋シ調査權ハ彈劾權ニ必
 要缺シヘカラサルモノニシテ若シ内閣大臣ヲ彈劾スルノ權否ナ寧
 ロ義務アル立法權ニ在テ此ノ調査權ナシトセハ恰モ犯罪ヲ公訴ス
 ヘキ任アル檢察官ニシテ犯罪搜查ノ權ヲ有セサルト同一ノ憾ナキ
 能ハサルナリ加フルニ調査權ノ要タル惟リ彈劾權ノ上ニ於テ必要

ナルノミナラス立法權ニ提案及ヒ修正ノ權ヲ有スル以上ハ必スシ
 モ有セサルヘカラサルノ權利ナリトス
 ロシノ氏曾テ著セル立憲政体論ニ曰ク一般公務ノ事業ニ就テ議院
 ノ勤ムヘキ業務ハ皆タニ其歳出入ヲ議決シ及ヒ法律ヲ制定スルニ
 就テ執行スル處ノ直接ノ事業ノミナラス猶ホ他ニ間接ノ事業アリ
 此レ甚タ大切ナル効力ヲ有スル事業ナリトス且ヤ立法權ニ於テ爲
 シ能ハサルモノハ果シテ何物カアル其ノ思考シ能ハサルモノハ果
 シテ何物カアル何トナレハ其討論タル固ヨリ公然ニシテ殊ニ質問
 權ナルモノヲ有スレハナリ其レ議院自ラ施政權ヲ掌ル能ハサルハ
 誠ニ然リ然リト雖モ又施政上ノコニ付テハ細大漏サス其ノ調査權
 ヲ行フヲ得サルヘカラス其ノ之レヲ行フノ事業タル他一般ノ歳
 出歳入ヲ議決シ若クハ二三ノ法律ヲ制定スル(即チ直接ノ事業)ヨリ

モ一層國ノ盛榮及ヒ其ノ自由ニ取テハ貴重ナルモノナリト
 我カ憲法上調査權ノコト明記シタル正條ナシト雖モ帝國議會ハ此
 ノ權利ニ關シテ原因トナリ又結果トナルノ諸權利チ有セリ去レハ
 我カ立法權ニ於テ此ノ權利有スルコト明然其ノ體チ顯ハサスト雖モ
 猶ホ黑雲中龍體アルヲ知ルニ足レリ其ノ原因トハ何ソヤ曰提案權
 及ヒ修正權(憲法第三十八條末文及ヒ議院法第二十九條)曰上奏ノ權
 及ヒ建議ノ權(憲法第四十條全四十九條及ヒ議院法第五十一條全第
 五十二條)是レナリ結果トハ何ソヤ曰質問ノ權(議院法第十章)是ナリ
 蓋シ我カ立法權ニ於テハ彈劾權チ有セスト雖モ之レニ換フルニ上
 奏ノ權アリ又政府ニ對シテ建議スルノ權アリ既ニ上奏ノ權及建議
 スハノ權チ有シ且ツ法案チ提出シ及修正ヲ發議スルノ權チ有スル
 帝國議會ハ此ノ權チ行フタメ必要ナル調査チ爲スノ權チ有セサ

ルヘカラス既ニ調査ノ權アリトセハ又必要ナル處ノ報道チ得ルノ
 途モ有セサルヘカラス是レ質問權タルノ結果生シタル所以ナリ加
 フルニ調査權ノ確乎タル必スシモ是等ノ權チ行フカタメノミニ限
 ラス凡テ議院ノ議判ニ附シタル事件ニ付該權チ便用スルチ得ルモ
 ノナレハ此ノ權利ハ議院チシテ万般ノ政事ニ付キ有効ナル監督チ
 行フノ方法テ與フルモノトス

第二款 樞密顧問

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依

リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

本條ハ樞密顧問ノ職務權限チ定メタルモノニシテ我カ國始メテ之
 レチ設ケダレハ明治二十一年四月勅令第二十二号ヲ以テ樞密院官
 制ヲ制定セラレタルニ初マルモノナリ元來樞密院ハ如何ナル事チ

掌ルモノナルヤト云フニ其性質ハ立法權ニモ施政權ニモ更ニ關係ナクシテ天皇陛下ノ諮詢ニ應シテ意見ヲ奏上スルト云フ職務ヲ掌ルモノナリ勅令第二十二号ニ曰朕元勳及ヒ練達ノ人ヲ撰ミ國務ヲ諮詢シ其啓沃ノ力ニ倚ルノ必要ヲ察シ樞密院ヲ設ケ朕カ至高顧問ノ府トナサントス云々トアリ又官制第一條ニ曰樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル處トストアリ又全第八條ニ曰樞密院ハ行政及立法ノコニ關シ天皇ノ至高ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコトナシトアリ由之觀是ハ樞密院ハ惟リ主權即チ天皇陛下ノ一人ニ附屬スル顧問府ナルヲ明カナリ故ニ之レヲ關係上ヨリ云ヘハ樞密院ハ立憲權力即チ天皇陛下其人ニ屬スル顧問ニシテ從前ノ參事院今ノ法制局ハ施政權即チ内閣ノ顧問役ナリ各省ノ參事官ハ行政部長即各省大臣ノ顧問役ナリ府縣參事官ハ知事ノ顧問役ナリ郡

市役所ノ參事會ハ郡長市長ノ顧問會ナリト云フヘキ割合ノモノナリ
 樞密院ハ現今英國ニ於テ存スレモ他ニ之レカ設ケアル邦國アルヲ聞カス英國ノ樞密院ト雖モ今日ニ在テハ至テ微々タルモノニシテ殆ント有レモ無キカ如キ有様ナリ意フニ我カ國樞密院モ英國ノ制度ヨリ寫シ取りタルモノナルニ似タリ然ラハ我國ノ樞密院モ其實ハ有ルモ可ナリ無キモ可ナリト云フヘキヤト云フニ決シテ然ラス何トナレハ我カ天皇陛下ハ他諸國ノ君主ト異ナリテ自ラ統治權ヲ總攬シ施政權立法權ノ上ニ立テ萬機ノ勞ヲ自ラ執ラセラル、モノナレハ他國君主ニ比スレハ其ノ職務多ク隨テ顧問官ノ補佐モ必要ナレハナリ殊ニ我國モ立憲代議ノ政体トナリテ段々機關ノ具ハルニ至レハ天皇陛下ハ萬機ノ統領者トシテ二大權ノ上ニ立テ兩權ノ

衡平ヲ求メ軋轢ヲ整理シ其運轉ヲ圓滑ニスルヲ謀ルヘキ大機關
 士タル至當ノ地位ニ在ルモノナレハ立法權ニモ關係ナク全ク其局
 外ニ中立スル處ノ顧問府ノ必要アルヲ敢テ多辨ヲ要セサルナリ
 本來顧問職ナルモノハ當局者ニ燈火ヲ照シテ見スルト云フ性質ノ
 モノナレハ事物ノ道理關係結果ヲ明カニシテ當局者ノ考案ニ供ス
 ル丈ケノモノニテ自ラ手ニ取テ事ヲ行フト云フ專決ノ力ヲナキノ
 ミナラス其ノ意見ト雖モ帝國議會ヤ府縣市町村會ノ議決ノ如ク當
 局者ハ必ラス之レニ隨ハサルヘカラスト云フヘキモノニアラサル
 ナリ是レ余カ其ノ性質提灯持チニ過キスト云ヒシ所以ナリ故ニ譬
 ヘハ帝國議會ノ議決シタル法案ニ就キ之レヲ裁可スヘキヤ否ヤノ
 諮詢ヲ受クレハ樞密顧問ハ評議ノ上可否ノ旨ヲ奏上セサルヘカラ
 サルモ其ノ奏上シタル通りニ採用スルモ採用セサルモ全ク天皇ノ

思召ニ在ルモノトス
 樞密院ノ職務○樞密院ノ職務ハ之レヲ大別スレハ正面的ノ職務ト
 側面的ノ職務トノ別アリ左ニ之レヲ述ヘン

第一 正面的ノ職務

樞密院ハ勅令第二十二號ニモアル如ク天皇陛下ノ諮詢ニ對シテ國
 務ヲ審議シテ其ノ意見ヲ奏上スルカ本体ノ職務ナリ今其ノ細目ヲ
 掲クレハ官制第六條ニ左ノ規定アリ

第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付會議ヲ開キ意見ヲ奏上シ勅裁ヲ
 請フヘシ

一 憲法及憲法ニ附屬スル法律ノ解釋ニ關シ及豫算其他會計上ノ
 疑議ニ關スル爭議

二 憲法ノ改正又ハ憲法ニ附屬スル法律ノ改正ニ關スル草案

三重要ナル勅令
四新法ノ草案又ハ現行法律ノ廢止改正ニ關スル草案列國交渉ノ
條約及行政組織ノ計畫

五前諸項ニ掲グルモノ、外行政又ハ會計上ノ重要ノ事項ニ付特
ニ勅命ヲ以テ諮詢セラレタルキ又ハ法律命令ニ依テ特ニ樞密
院ノ諮詢ヲ經ルヲ要スルトキ

是レ樞密院正面的ノ職務ノ大綱ヲ示シタルモノニシテ天皇陛下主
權者トシテ立法上又ハ施政上ノ國務ヲ御親裁セラル、ニ該リ其ノ

事ノ重要ナリトセラル、キニ於テ右數箇ノ場合ヲ生スルモノナリ

第二一 側面的ノ職務

樞密院ハ前段述フル處ノ職務ノ外尙ホ皇室典範ノ定ムル處ロニ據
レハ國務ニ全ク關係セサル職務アリ是レ余カ假リニ側面的ノ職務

ト云ヘルモノニシテ今皇室典範ニ定ムルケ條ヲ掲クレハ

第九條 皇嗣精神若クハ身体ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故

アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ
順序ヲ換フルヲ得

第十九條(二項) 天皇久キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルヲ

能ハサルキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十六條 攝政又ハ攝政タルヘキモノ精神若クハ身体ノ重患
アリ又ハ重大ノ事故アルキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ

其ノ順序ヲ換フルヲ得

第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セザリシトキハ攝政ヨリ

皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ撰任ス

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル后ニ非サ

レハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ

勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第六十三條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必

要アルニ當テハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘ

シ

右ハ直接ニ國務ニ關スルニアラサレモ皇室ノ事タル實ニ一國ノ

基礎ニ關スルモノナレハ及フヘキノ力ヲ盡シ決シテ事ニ誤マリナ

キヲ期セサルヘカラサルモノナルニ幸ヒ樞密顧問ト云フ智者ア

ルヲ以テ一應之レニ諮詢シテ後決行スルカ宜ロシト云フ主義ニ

出テタルモノナルヘキナリ

樞密顧問ノ責任○或人問テ曰憲法第五十五條ニハ國務大臣ハ其責

メニ任ズトノ明文アルモ第五十六條ニハ此ノ明文ナキヲ以テ樞密
顧問ハ如何ナルヲ爲スモ其ノ責メニ任スルニ及ハサルヤト是レ
決シテ然ラサルナリ抑々樞密顧問ハ恰モ扇ノ要メニ立テ重要ノ國
務ヲ審議奏上スルモノナレハ假令其ノ意見ハ專決ノ力ヲナキニモ
セヨ若シ毫厘ノ事モ違フキハ竟ニ千里ノ誤リヲ惹起ス程ノ須地ニ
在ルモノナレハ如体ゾ責任ナキノ言ヲ以テ諮詢ニ奉答スルヲ得
ヘケンヤ樞密顧問ハ天皇陛下ノ後口楯トナルニ止リ國務大臣ノ如
ク國家ノ施政ニ關係セサルカ故ニ憲法上其責任ノヲ明定セサル
モ其職務上天皇陛下ニ對シテ責任ヲ有スルヲ疑フニ及ハサルナリ
官制第七條ニ曰前條第三項ニ掲ケタル重要ナル勅令ニハ樞密院ノ
諮詢ヲ經タル旨ヲ記載スヘシトアリ是人民ニ對シ直接ニ遵奉義務
ヲ生セシムル重要ノ勅令ナルヲ以テ必ス其ノ責メニ任スヘキヲテ

認メシメタルモノニシテ恰モ責任ヲ有スル國務大臣カ勅令ニ副署スルヲ以テ已レノ責任ヲ確認スルト同一ナルモノトス

第五章 司法

司法權ハ裁判ヲ掌ルモノニシテ行政權ト並立シ施政權ニ從屬スルモノナリ天皇陛下ハ施政權ノ首領トシテ其ノ綱ヲ取ラセラル、モノナルコトハ既ニ第十條ノ下ニ於テ反復詳論シタル處ロナリ司法權ノ獨立ニシテ行政權ノ干涉ヲ防カサルヘカラサルヲハ實ニ裁判ノ公平ヲ維持スル爲メ必要欠クヘカラサル者ナリロシ、氏曰裁判ノ事務ヲ善ク管理シ其ノ効力ヲ鞏固ニスルハ即チ社會存立ノ基礎及ヒ其秩序ヲ鞏フスルニ外ナラス裁判ハ宛モ社會ノ柱石ノ如シ若シ此ノ社會ヨリ人爲ノ裁判ヲ除去シ其ノ効力ヲ剝奪セハ社會ハ既ニ成立スル能ハサルナリト

夫レ司法權ノ獨立シテ鞏固ナルヲ要スルノ理由斯ノ如シ茲ニ於テカ過信速了ノ論者ノミナラス稍々社會ニ信用アルノ學者ト雖モ司法權ヲ以テ一ケノ憲法上ノ大權ナリト信シ且ツ論シテ曰司法權ヲシテ堅牢ナル基礎ノ上ニ建設スルノ方法ヲ要メサルヘカラス佛國共和曆第八年ノ憲法ニ於テ司法權ヲ見テ行政權(即チ施政權)ノ下ニ云フノ一部ニ過キストシ實際國ニ二大權ノ外アルヲナシト看做シタルハ是レ司法權ヲシテ行政權ニ隸屬セシムルノ法便ヲ擗ヘタルモノニシテ即チ籠賂手段タルニ外ナラス然レモ數年ノ實驗ニ由テ之レヲ觀レハ此ノ制ノ弊害ヲ生シ易キハ己ニ明白ナリト是レ畢竟司法權ノ職掌タル法律ノ執行ヲ掌ルモノタルトノ理ヲ悟ラサル誤謬ノ說ナリト云フヘキナリ

行政權ト司法權トノ分別モ猶ホ立法施政ノ二大權ノ分立ト同一ノ

主義ニ基ケルモノナレバ司法權ノ構成モ亦タ之レヲ憲法上ニ明定シ置クハ至當ノトナリトス而シテ我カ憲法上司法權ノ分立ハ決シテ夫ノ三大權論者ノ誤説ニ迷ハサリシトハ樞密院議長伊藤伯カ明治二十二年二月十七日裁判官及ヒ檢事ニ對シテ爲サレタル演説ヲ以テ充分證スルニ足レリ其演説中ニ曰ク

今君主權ヲ論スルニ付テハ勢ヒ多少他ニ論及セサルヲ得ス彼ノ中古歐洲ニ於テ一時聲價ヲ得タル三大權分立ノ説即チ司法行政立法ノ三權各分立シテ各個ノ機關トシテ獨立セシムルノ説ハ輓近學者ノ排^斥スル處トナリテ却テ主權ハ歸一ニシテ分割スヘカラスト云フニ至レリ要スルニ我カ憲法ハ輓近ノ學説ト直ニ符合スルモノナリ蓋シ孟的斯鳩カ三權分立論ヲ主張シタルモノハ諸君ノ了知セラル、如ク畢竟英國ノ憲法ヲ誤解シタルモノニ起因

スルハ歐洲ノ學者モ亦タ既ニ之レヲ認知セリ予ハ今此ノトニ付詳論スルヲ得スト雖ヒ只タ我カ憲法ノ主義ハ孟的斯鳩ノ説ト全シ相異ナルノ一例ヲ舉ケ以テ主權ハ歸一ニシテ分割スヘカラストノトヲ示スニ過キサリナリ云々

此ノ説ハ善ク余カ論ヲ確ムルモノニシテ又我カ憲法ノ主義ヲ明カニスルモノナリ而シテ論中主權ハ歸一ニシテ分割スヘカラストアルハ敢テ立法權施政權ノ區別ヲモナシト云フノ意ニアラサルナラシ故ニ予ガ総論ニ於テ述ヘタルカ如ク主權即チ立憲權力ハ一ツアリテ二ツナキモノナリトノ意ニシテ固ヨリ此ノ主權ヲ實際ニ發動セシムルノ方法ハ憲法ヲ以テ憲定權力ナルモノヲ作り立法施政ノ兩權ヲシテ實際ニ働カシムルニ相違アラサルナリ

要スルニ司法權ハ施政權ノ一部分ニ屬シ主權發動ノ一機關ナルヲ

二百二十六
 以テ天皇陛下其ノ綱領ヲ掌ラセラル、モノトス天皇陛下其ノ綱領
 ヲ掌ラセラル、トノ主義ヨリシテ裁判ニ自爲裁判ト委托裁判トノ
 區別生スルナリ自爲裁判トハ天皇陛下ノ御親裁ニ出ルモノヲ云ヒ
 委托裁判トハ本章ニ規定セルモノニシテ裁判官ヲシテ裁判セシム
 ルモノヲ云フナリ委托裁判ハ法律規則ノ執行ヲ掌ルモノニシテ吾
 人ノ常ニ見聞スル處ナリト雖モ自爲裁判ハ事ノ重大ナルモノニ限
 リニ大政權ノ上層ニ位スル獨一無二ノ主權者トシテ天皇陛下ノ行
 ハセラル、非常ノモノナレハ平常ニ在テハ其例ヲ見ルヲ能ハスト
 雖モ曾テ聞クニ往時我カ廟堂ニ於テ征韓論ノ隆起シ龍虎相持シテ
 互ニ一步モ讓ラス國是中天ノ上ニ迷フテ其ノ歸スル處ヲ知ル能ハ
 サルニ當リ陛下ハ御親裁ヲ以テ其ノ是非ヲ英決セラレタリト果シ
 テ事實ナリトセハ則チ自爲裁判ノ實例ナリトス

夫レ司法權ハ人民ノ權利財産ノ保護ヲ目的トスルモノナレハ必ス
 獨立不羈ナラサルヘカラス然レモ此ノ權利ヲ活用スルモノハ之レ
 人ナレハ凡ソ人ノ短所トシテ或ハ時世ノ爲メニ動かサレ或ハ政黨
 ノ爲メニ誘ハレ行政權ニ侵サレ私情ニ迷ハサレテ公平心ヲ失却シ
 枉法ノ所爲ニ陥リ易キハ數ノ免カレサル處ロナリ之レヲ防カンニ
 ハ宜敷法ヲ設ケテ裁判官ノ獨立ヲ謀ラサルヘカラス其ノ方法ノ如
 キハ元トヨリ種々アルヘシト雖モ裁判官ノ構成ヲ嚴ニシ裁判官ノ
 品格ヲ高フシ其地位ヲ尊フシ裁判ノ執行ヲ公ケニスヘキナリ我カ
 憲法及ヒ治罪法其他ノ諸法律ニ於テ其方法ヲ規定スル密ニシテ殆
 ント余地ナシト云フヘキナリ

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁
 判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

本條ハ司法權ノ活動スル有様ヲ簡約ニ解キ定タメルモノトス此ノ定解ニヨレハ司法權ノ活動正格ニシテ裁判ノ有効ナルカタメニハ左ノ三條件ノ具備スルヲ要セリ

第一 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ行フ

第二 司法權ハ法律ニ依テ行フ

第三 司法權ハ裁判所ニ於テ行フ

司法權ハ天皇ノ名ニ於テ行フ○此ノ條件ハ司法權ノ所在ヲ示シ暗ニ司法權ハ主權ノ發動タルヲ示スナリ而シテ主權ハ正理公道ニシテ一アツテ二ナク一天萬乘ノ天皇陛下掌ラセ給ハルヲ屢々述ヘタル處ロナリ

サレハ天皇陛下ハ一國ノ元首タル正理公道ノ源泉ニシテ裁判官ハ

司法權ノ機關トナリテ主權ヲ發動セシムルモ要スルニ天皇陛下ノ代理者タルニ過キス是レ天皇ノ名ニ於テ司法權ヲ行フ所以ナリ然リ而シテ天皇ノ名ニ於テ行フトハ天皇陛下ノ名代人トシテ行フトノ謂ヒナリ換語スレハ司法權タル機關ノ所有者ハ天皇陛下ニシテ裁判官ハ只タ其屬人タル機關士ニ過キストノ云ヒナリ故ニ決シテ裁判言渡ヲ爲スニハ裁判官ノ氏名ヲ記セスシテ天皇陛下ノ御名御璽ヲ以テスト云フニアラサルナリ
司法權ハ法律ニ依テ行フ○行政官ハ命令ニ動キ司法官ハ法律ニ動クトノ格言タル實ニ行政官ト司法官トノ性質ヲ明カニシ其區別ノ生スル處ヲ示スモノナリ故ニ行政官ニ在テハ法律ヲ見テ輪廓ヲ示スニ過キサルモノトシ長官ハ此ノ輪廓ノ範圍内ニ於テ命令ヲ下シ自由ニ部下ノ官吏ヲ運動セシムルヲ得ヘキモノナリ然レモ裁判

二百二十
官ニ在テハ法律ヲ見テ單一ノ進行線トナシ此ノ進行線ノアテノ限
リハ充分ニ運動スルヲ得ルト雖モ此ノ線ナキニ於テハ雖モ
長官ノ命令アルモ一步モ進ムコトノ出來サルモノトス果シテ然ラ
ハ行政官ノ一舉一動ハ總テ長官ノ命令ニ出テ苟モ法律ノ範圍外ニ
奔出セサル限リハ決シテ之レヲ拒ム能ハサルモノナリト雖モ司法
官ハ只管法律ノミ是レ守リ決シテ長官ノ命令ニヨツテ裁判ヲ左右
スルノ義務ナク否ナ決シテ之レニ左右セラルヘカラサルモノナリ
若シ夫レ裁判官ナシテ他諸權利ノ命令訓達ニ隨カハサルヘカラサ
ルモノトセハ裁判ノ獨立鞏固ナル能ハス臣民ノ權利財產ノ保護ハ
頼ムニ足ラサルナリ故ニ裁判官ノ眼中ニハ唯タ法律アルノミニシ
テ決シテ長官アルヘカラス裁判官ノ腦中ニハ唯タ法律ヲ守リ法律
ヲ適用スルノ精神アリテ法律ノ時世人情ニ適スルヤ否ヤヲ判斷ス

ルノ精神アルヘカラサルナリ是レ司法權ハ法律ニ依リ行フトノ原
則憲法上ノ一主義トナリタル所以ナリトス羅馬ノ法訓ニ曰汝テ法
官ハ何故ニ法律ノ可否ヲ裁判スルヤ汝テハ法律ニ循ヒ裁判スルダ
メ法庭ニ坐スルノミト
司法權ハ裁判所ニ於テ行フ○裁判ヲ行フニハ鄭重ニ構成シタル嚴
式ノ機關ヲ以テセサレハ司法權ノ威嚴ヲ集メ公平獨立ヲ保ツト能
ハサルモノナリ故ニ憲法ハ之レヲ裁判所ト名クル一種特別ノ威嚴
ヲ備ヘタル官廳ヲ設ケテ此所ニ於テ此ノ權利ヲ行ハシメントテ欲
シタリ是レ此ノ條件ノ必要ニシテ憲法上ノ一主義トナリタル所以
ナリ
各國皆ナ此ノ原則ヲ採用シ我國モ古來裁判ハ一種ノ官吏ニ於テ掌
リタリ然レモ未タ必スシモ此ノ官吏ノ行フニアラサレハ裁判ノ裁

判タル所以ヲ爲サスト云フニ至ラス維新ノ際ニ在テハ縣廳ニ於テ
 裁判事務ヲ行フタルノ沿革アリ今日ト雖レ便宜上違警罪ハ警察署
 分署ニ於テ裁判スルコトナリ又賭博犯及ヒ密賣淫犯ノ罪ノ如キハ
 刑法ニ拘ラス行政官ノ處分ニ依テセラレ警察署ニ於テ裁判スルコ
 トナリ居レモ斯ノ如キ法令ハ凡テ本條ニ矛盾スルモノナレハ第七
 十六條ニ依テ憲法實施ノ曉ヨリ其ノ効力ヲ失フヘキモノナリ
 第二項○憲法ハ大原則ヲ示スニ止マリ此ノ原則ヲ演釋シテ其ノ行
 用ヲ規定スルハ立法者ノ職權ナリ蓋シ裁判ヲ行フニハ裁判官檢察
 官及ヒ書記ノ如キ職員ヲ要シ且ツ種々ノ程式規則ノ如キモノヲ要
 スト雖レ是レ只ク以上ノ三條件ノ原則ノ適用ニ外ナラスシテ即チ
 裁判所ノ構成タルニ過キス故ニ本項ニ於テハ之レヲ法律ヲ以テ定
 ムヘキコトナシタルナリ

然リ而シテ之レヲ立法者ノ職權内ニ歸セシメ法律ヲ以テ規定スル
 コトナシタル所以ハ如何ト云フニ凡ソ機關ナルモノハ其ノ設置ノ
 如何ニ因テ其ノ速力ノ遲速馬力ノ強弱ヲ自由ニ左右スルコトヲ得ヘ
 キモノニシテ裁判所ノ構成ノ如キモ其ノ組織ニ因テ其權力威嚴ノ
 強弱ヲ左右シ得ヘキモノナレハ之レヲ施政權ニ放任スルハ巧ミ
 ニ裁判ノ獨立威嚴ヲ奪却スルノ恐レアリ是レ行政司法二權分立ノ
 主義上堅ク禁セサルヘカラサルモノトス故ニ本項ニ於テハ裁判所
 ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムト明言シ以テ暗合無言ノ裡ニ於テ施
 政權ノ之レニ干渉スルコトヲ禁シタルモノトス

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メ資格ヲ具フル者ヲ
 以テ之ニ任ス
 裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其

ノ職ヲ免セラル、コトナシ

懲戒ノ條現ハ法律ヲ以テ之レヲ定ム

本條第一項ノ分疏ハ第十九條ニ就テ述ヘタル處ト同一ナリトス第
二項ハ裁判官ノ終身官タルトノ原則ヲ定メタルモノトス
凡ソ裁判官ハ民事刑事特ニ國事犯事件ノ裁判ヲ爲スニ付テハ公平
ヲ以テ徑トナシ正直ヲ以テ緯トナサ、ルヘカラス公平正直ナラン
カヌメニ、宜敷不羈獨立ノ精神ナカルヘカラス夫ノ政府ノ威權ニ畏
レ旨ヲ希フテ擅ニ法ヲ枉ケ人民ノ歡心ヲ買ハンカヌメ若クハ情誼
ニ泥ミ利慾ニ迷ヒ爲メニ公正ノ裁判ヲ爲ス能ハサルカ如キハ既ニ
裁判官タルノ本色ヲ具フルモノト云フヘカラス然リ而シテ裁判官
ヲシテ眞ニ此ノ不羈獨立ノ精神ヲ有タシメンニハ須ク先ツ之レヲ
シテ其ノ然ラシムル所以ノ基礎ヲ鞏固ニセサルヘカラス是レ文明

諸國法律ニ於テ凡ソ裁判官ハ刑事又ハ懲戒ノ裁判ニ依ルニアラサ
レハ慢リニ之レヲ罷免セシムヘカラストスルヲ以テ一大原則トナ
シ我カ憲法ニ於テモ亦タ之レヲ以テ一主義トシ以テ裁判官ノ位地
ヲ鞏固ニシタル所以ナリ
高名ナル著述家ノ言ニ曰裁判職ノ不動ハ以テ豫メ立憲政体ノ治ヲ
爲スニ足ルト此ノ言簡短ナリト雖モ其ノ意味深遠ニシテ適切ナリ
ト云フヘシ蓋シ行政官ニ於テ裁判ノ判決ヲ左右スルニ足ルベキ有
力ノ手段ヲ有シ裁判官ヲシテ其ノ本分ト利録トノ間ニ彷徨セシメ
裁判官ノ任免ヲ行政官ニ一任スルハ遂ニ媚ヲ行政官ニ呈スルカ
如キ卑屈心ヲ生セシメ憲法上人權ノ保障ハ終ニ其ノ効ヲ有セサル
ニ至ルヘシ若シ裁判官ノ進退ヲシテ執權政黨ノ欲望スル處ニ放任
スルハ情勢必ズ茲處ニ至ラサルヲ得ス故ニ裁判官ヲ終身職ト爲

スハ憲法上不拔ノ原則ニシテ深ク分疏ヲ要セサルナリ
 然レモ裁判官モ亦人ナリ已レノ地位ニ安スルニ隨テ職務ヲ恣リ
 驕慢ニ流レ賄賂貪贓ノ弊ニ蹈ルノ人ナキ能ハス又金錢ヲ以テ裁判
 シ賣買スル如キ不正非道ノ人ナキ能ハス斯ル^{場合}ニ於テモ其ノ終
 身官タルノ故ヲ以テ之レヲ責ムル能ハストセハ公共補益ノ爲メニ
 設ケタル原則却テ反對ノ結果ヲ生セン故ニ懲戒ノ法ヲ設ケテ裁判
 官ノ品格ヲ規制シ此ノ品格ヲ保ツ能ハサルモノ及ヒ刑法ニ觸ル、
 モノアルキハ刑法又ハ懲戒ノ裁判ヲ以テ宜敷之レヲ處分スヘキナ
 リ
 其ノ懲戒ノ條規ノ如キハ法律ヲ以テ之レヲ定ムヘキモノニシテ裁
 判官進退上ノコトニ付テハ一切行政官ニ於テ干涉セシムヘキコトニア
 ラス故ニ本條第三項ニ於テ之レヲ明カニ規定シタルナリ

裁判官ノ終身保職タルノ原則ハ敢テ裁判官其人ノ私益ヲタメニ設
 ケタルニアラスシテ專ラ公益ノタメ行政官ニ對シテ獨立ノ精神ヲ
 有タシメントスルニ外ナラサルヲ以テ公益ノタメニハ亦タ退隱令
 ノ如キ法律ヲ設ケテ老衰ノ裁判官ニ制限ヲ定ムルハ決シテ本條ノ
 大主義ニ扞ラサルモノナリ

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之レヲ公開ス但シ安
 寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依
 リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコ
 トヲ得

本條ハ裁判公行ノ原則ヲ定メタルモノトス抑々審判ニハ二種ノ別
 アリテ一ハ豫審判事ノ行フ審判ニシテ二ハ公判々事ノ行フ審判ナ
 リ而シテ豫審判事ノ行フ審判ヲ豫審ト云ヒ公判々事ノ行フ審判ヲ

二百三十八

公判ト云フ此ノ二者ハ審判ノ性質手續キテ互ニ異ニシテ豫審ノ性質ハ證據ノ有無ヲ審査スルニ在テ公判ノ性質ハ罪ノ有無輕重ヲ審査スルニ在リ其ノ手續キモ豫審ハ秘密ニシテ對審ニアラス公判ハ則チ然ラス必ス公然ニシテ適々不得止場合ニ於テ欠席ノ儘裁判スルコトアリト雖厄之レヲ除ク外ハ必ス對審ナラサルヘカラサルモノトス本條ニ於テ對審判決云々トアルハ則チ之レヲ云ヘルモノニシテ假令止ムコト得サル非常ノ場合ニ於テ欠席ノ裁判ナキニアラサルモ其ノ本則タルヤ必ス對審ナラサルヘカラサルモノナルカ故ニ對審ノ文字ヲ以テ公判々事ノ行ヘル審判ノコトヲ指稱シタルモノトス然リ而シテ茲ニ云フ處ノ對審判決即公判ハ刑事ノ公判ナルト民事ノ公判ナルトノ別アラサルモノナリ

夫レ裁判ナルモノハ主權ニ依テ行フモノニシテ即チ正理公道ノ鏡

ニ照シ罪惡ノ有無輕重及ヒ權利義務ノ關係ヲ公明正大ニ裁斷スヘキモノナリ殊ニ刑事公判ニ在テハ既ニ證據モ備ハリ被告人モ稍々犯人タルヘキノ模様モ顯ハレタルモノナルヘケレハ決シテ之レヲ秘密ニスルノ必要ナキノミナラス裁判ノ威嚴ト判決ノ公平トヲ保持シ世人ノ疑惑ヲ避ケンカダメニハ必ス公開ヲ爲スノ必要アリトス然レモ國事犯ノ陰謀ニ關スル事件又ハ官吏侮辱罪ニ關スル事件等ニ付テハ之レヲ公開スルキハ大ニ社會ノ安寧ヲ害スルノ場合アリ又犯姦罪等ニ關スル事件ヲ公然審問スルキハ社會ノ風俗ヲ紊乱スルノ場合アリ斯ル場合ニ於テハ必ス其ノ公開ヲ停止セサルヘカラス而シテ之レヲ停止スルノ方法ハ裁判所ノ見込ミヲ以テスルコトモアリ又々今日ニテハ法律上豫メ公判ヲ停止スト定メタルモノナシト雖モ他日制定アルヘキ法律ニ於テハ法律上其ノ停止スヘキ場

合ヲ定ムルトモアルヘキナリ
治罪法第二百六十三條ニ曰「重罪輕罪違警罪ノ訊問辯論及ヒ裁判言
渡ハ之レヲ公行ス否ヲサルキハ其ノ言渡ノ効ナカルヘシ」トアリ又
全第二百六十四條ニ曰「被告事件公安ヲ害シ又ハ猥褻ニ涉リ風俗ヲ
害スルノ恐レアルキハ裁判所ニ於テ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權
ヲ以テ其訊問及辯論ノ傍聽ヲ禁スルトヲ得其ノ裁判言渡ヲ爲スニ
當テハ傍聽ヲ許スヘシ」トアリテ則チ本條ノ原則ヲ治罪法ニ於テ適
用シタルモノナリト知ルヘシ

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ
法律ヲ以テ之ヲ定ム

裁判所ノ構成ハ必ス立法權ニ於テ法律ヲ以テ定メ施政權ニ放任ス
ヘカラサルノ理由ハ既ニ第五十七條第二項ニ於テ詳論セシ處ロナ

此ノ理由ハ亦々本條ノ理由ト爲ストヲ得ヘシ西洋諸國ニ於テ臨時
特別裁判所ナルモノ、往々痛嘆スヘキ苛虐ノ事蹟ヲ遺シタルコトハ
各國ノ歴史殊ニ英國佛國等ノ史籍ニ其例多シトス我カ國未タ斯ク
ノ如キ兇暴ノ事蹟ナシト雖トモ苟モ國ニ立憲ノ政体ヲ立テ人權ノ
自由ヲ確保スル憲法上ニ於テ特筆スベキ事項ニシテ實ニ行政權ニ
對シテ司法權ノ獨立ヲ萬世ニ保ツタメ特別裁判所ノ事ニ就テモ法
律ヲ以テ之レヲ定メ敢テ施政權ニ放任セストノコトヲ規定シタルハ
當然ナリトス
本條ニ云ヘル特別裁判所トハ陸海軍ニ關スル軍法會議ノ如キ管船
局ニ屬スル海事審庭即チ船ノ衝突シタルハ船長ノ過失ナルヤ又雙
方中何レノ船ニ過失アルヤヲ判決スル裁判ノ如キ又他日設ケアル
ヘキ商工裁判所等ノ如キモノニシテ一種特別ノ人々ノ間ニ生シタ

ル訟争ニ關シ而シテ一種特別ノ技能ヲ有スル裁判官ヲ要シ公益ノ爲メニハ特別ニ簡略ナル審問手續キヲ要シ且ツ其掌ルヘキ法律ヲ異ニスルモノニシテ例ヘハ軍法會議ノ判士ハ軍人ナルヲ要シ商事裁判所ノ裁判官ハ商人ナルヲ要スルカ如キ又上訴ヲ爲スノ制限ヲ狭マクスルトカ訴訟ノ期限ヲ短カクスルトカ云フカ如ク皆ナ普通ノ裁判所構成ニ因ルコトノ出來サルモノナレハ法律ヲ以テ各々専門ノ裁判所ヲ設クルノ必要アルモノトス又高等法院ノ如キモ被告事件ノ性質若クハ被告人ノ身分ニ因リ特別ノ威權ヲ有スル裁判官及ヒ特別ニ鄭重ニ構成シタル裁判所ヲ要スルカ故ニ特別裁判所トシテ別ニ設ケタルモノトス

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定

メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限リニ在ラス
本條ノ規定シテ曰ハントシタル處ハ則チ裁判ハ總テ司法權ニ於テ爲スヘキモノナレトモ行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ害セラレタリトノ訴訟ニ付テハ別ニ法律ヲ以テ行政裁判所ト云フモノヲ設クル等ナレハ其ノ裁判所ノ管轄スヘキコト定メタル事件ハ司法裁判所ニテハ受付ルニ及ハスト云フノ意ナリ
而シテ如何ナル事件カ行政裁判所ノ管轄ニ屬セシメラル、ヤハ法律ヲ以テ定メラルヘキモノナリト雖モ今道理上ヨリ見又本條ノ解釋上ヨリ云フキハ行政官廳ノ處分ナレハ皆悉ク行政裁判所ノ管轄スヘキモノナリト云フヘカラス則チ行政官廳カ行政官廳トシテ行フタル處分ノミカ行政裁判所ノ判權ニ屬スヘキ事件ニシテ若シ行

二百四十四
政官廳ノ行フタル處分ト雖モ法律上ノ無形人ト看做スヘキ一個人ノ資格ヲ以テ爲シタルコトニ付テハ通常司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノトス例ヘハ府縣廳カ官有物ノ拂下ケ例ヘハ公賣ヲ爲ス如キ又ハ書籍什器炭油等ヲ買入ル、如キ若クハ廳舎建築ニ付キ其建築者ト契約スルカ如キ所爲ハ全ク無形人ト看做スヘキ一個人ノ資格ヲ以テ爲シタル處分ナレハ仮令此ノ處分ノ爲メ損害ヲ蒙ルコトアルモ民法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノニシテ行政裁判所ノ判權ニ屬スヘキモノニアラス然レモ府縣廳若クハ郡區役所ニ於テ徵兵及收稅ノ如キ事務ヲ行フハ一個人ノ資格ニテ爲スニアラスシテ全ク治者タルノ本分ヲ以テ爲シタル公共ノ利益ニ關スル處分ナレハ若シ此ノ處分ニ關シテ人民ノ權利ヲ害スルカ如キコトアレハ即チ行政官廳ノ違法處分ト云フヘキナリ

茲ニ權利ヲ害セラル、コト利益ヲ害セラル、コトノ區別アルコトヲ注意セサルヘカラス權利ヲ害セラレタルコトニ付テハ官廳ノ處分ニ對シテ訴ヲ起スコトヲ得ヘキモ利益ヲ害セラレタルコトニ付テハ決シテ訴ヘテ起スコトヲ得ス例ヘハ府縣會ノ議決ヲ要スヘキ處分ヲ知事一人ニテ專決シタル如キ又ハ線路ヲ設クルニ當リ土地公用買上ケ規則ニ據リ所有者ニ償ヲ出スコトヲ爲サシテ人民ノ土地ヲ引上ケタル如キハ權利ヲ害スル違法處分ナリ然レモ公益ノ爲メ橋梁ヲ架設シタルカ爲メ渡舟營業者ノ職業ヲ失フタル如キ又ハ小學校教科書ヲ改正シタルカ爲メ書肆カ從前ノ教科書ノ販路ヲ失フタルカ如キハ只タ利益ヲ失フタルマデノコトニテ權利ヲ害セラレタルニアラス故ニ斯ル場合ニ於テハ官吏其惡意ヲ以テ爲シタルモニアラサレハ損害ヲ要償スルコトヲ得サルナリ

行政官廳ノ違法處分ノ爭訟ヲ司法裁判所ノ判定ニ任セスシテ行政官ノ裁判ニ屬セシムルハ如何ナル理由歟ト云フニ既ニ述ヘタル如ク行政司法二權ノ分離確定シ司法權既ニ不羈獨立ナルコトヲ得タル以上ハ行政權モ亦タ不羈獨立ナラサルヘカラス然ルモ行政官廳ノ違法處分ニ關スル爭ハ司法權ニ於テ干涉スルコトナク行政官ニ於テ裁判スルコトセサレハ兩權ノ對立上其衡平ヲ得サルナリ是レ行政裁判所ヲ設クル理由ノ一ナリ

加之行政官カ政ヲ行ハンカタメニハ之レヲ行フニ必要ナリト認ムル處ノ措置ヲ命令シ法律ノ執行ヲ強迫シ殊ニ警察法ヲ執行スルニ當テハ便詔ノ權道ヲ施シテ其ノ保安ノ目的ヲ達セサルヘカラス元來被治者タル人民ノ訴訟ハ總テ司法裁判所ニ告白スヘキノ主義ナリト雖モ右ノ場合ニ於テ生スル爭訟ハ其事柄ニ通曉練熟ナル行政

官ノ裁定ニ任スルノ變則法ヲ設クルハ公益上ノ便法ナリ是レ行政裁判所ヲ設クル理由ノ二ナリ

トバンセイ氏曰政令ヲ以テ法律ヲ執行シ世治ノ保安ヲ維持シ社會百般ノ需要ヲ經理スルハ則チ政ヲ行フナリ行政權ノ裁定ヲ以テ此ノ政令ニ就テ起ル處ノ訴訟及ヒ抗爭ヲ處斷スルモ政ヲ行フナリ故ニ行政權ハ其處分ヨリ起ル處ロノ抗爭ヲ區處スルノ權道ヲ有セサルモ行政ハ行フ能ハザルヲ以テ勢ヒ行政權ニ之レヲ裁判スルノ權ヲ授ケサルヘカラス若シ此ノ權ヲ司法裁判所ニ與ヘントセハ三權分立此ノ人ハ三大權論者ナリノ大主義ニ背キ行政官ノ獨立ヲ害シ其ノ責任ヲ空フスルニ至ルヘシ故ニ主義上ニ於テ政令ハ國君ヨリ直ニ出ル(勅令)ト行政ノ部長ヨリ出ル(省令)トヲ問ハス之レヲ以テ法律ヲ執行スルモノナレハ隨テ此ノ政令ヨリ起ル處ノ紛議爭訟ヲ裁定ス

ルノ權アルヲ疑フ容レス然レモ訴訟ノ種類ニ因テハ其ノ一ノ重要ナルガタメ行政權ノ裁判ヲ取除キタルモノアリ蓋シ行政權ノ爲スヘキ事柄ハ社會全体ノ公益ヲ目的ト爲スヘク且ツ爲サ、ルヘカラスト雖モ然レモ憲法ヲ以テ臣民ニ保障シタル權利(人身自由家宅不侵ノ如シ)ハ決シテ之レヲ侵害シ若クハ左右スルコトヲ得ス元來社會存立第一ノ要件ハ正ニ各人ノ權利ノ侵スヘカラサルコトニ在リ仍テ此ノ權利ノ保有ヲ舉テ司法權ノ防護ニ付シタリ然レモ此ノ權利ノ真正ナランニハ必ス各人個々ノ利益ノ爲メニ設ケタル法律命令(即刑法)ニ根據セサルヘカラス故ニ各人個々ノ利益ノ爲メニ設ケタル法律命令ハ各人ノ權利ヲ生シ憲法ヲ以テ保障セラレ司法權ノ防護ニ屬スルト雖モ各人公共ノ利益ノ爲メ設ケタル法律命令(即行政)ハ各人個々ノ權利ヲ生スルコトナシ是レ行政裁判ト司法裁判トノ權域

ヲ畫定スル處ノ源ナリト此ノ説ハ甚ダ込ミ入りテ解シ難キモ今語ヲ換ヘテ之レヲ云ヘハ行政官廳ノ政令即チ處分ハ公益ヲ目的ト爲スヘキモノナリト雖モ決シテ憲法上ニテ確認シタル臣民ノ權利例ヘハ所有權自由ノ如キ各個人ノ權利ハ動カストチ得ス然レモ此ノ權利モ無窮ニ行フモ各人相互ノ權利ニ牴觸シ又ハ公益ヲ害スルニ至ルモノナレハ勢ヒ相當ノ制限ハナカルヘカラス其ノ制限ハ二ツノ源ヨリ生シ一ハ各人相互ノ私益ヲ保護スルト云フ點ニ基キ一ハ社會公益ヲ保護スト云フ處ヨリ起リ其私益上ノ制限例ヘハ他人ノ土地ニ張出シテ家ヲ建テ隣人ノ所有權ヲ害スヘカラス(憲法上ニテ確認シタル所有權自由ニ科スル制限)ハ民法ニ規定シ之レヨリ生スル爭ハ司法官ノ裁判ニ屬シ又公益上ヨリ起ル制限例ヘハ街路取締規則ニ隨ハサレハ路傍

ニ沿フテ家ヲ作ルヘカラスト云ヘルカ如キ制限(是レ又所有權ニ科スル制限)ハ行政法ヲ以テ規定シ其爭ハ行政官ノ裁判ニ屬ス而シテ民法上ノ規定ハ各人ニ權利ヲ生スルカ故ニ隣地ニ建築シタル者ニ向テ汝チハ何故予カ土地ニ張り出シテ家ヲ作りシヤト云フテ告訴スルノ權利ヲ有シ若クハ民法上ノ制限ニ拘ラス張出シテ家ヲ作りテモヨロシイト許諾スルノ權利モ有スルナリ反之行政法ノ規定ハ各個人ニ權利ヲ生セサルカ故ニ路傍ニ沿フテ足臺ヲ設ケ若クハ圍ミヲ爲スニ付之レテ拒否スルハ社會ノ公益ヲ代表シタル警察署ニアラサレハ能ハス云々ト云フニ過キス

第六章 會計

按スルニ金幣ノ用タル政府ノ事業タルト人民ノ事業タルト之間ハス百般經理ノ神經ニシテ戰爭ノ如キ鐵道ノ如キ大事業ヨリ一家經

世ノ細ニ至ルマテ一トシテ此ノ神經ノ作用ヲ假ラスンハアラヌ其歲計ヲ定ムル法律ノ社會ニ切要ナルト猶ホ血脈ノ人身ニ於ケルカ如シセルセレ一氏曰立憲政体ノ難易得失多クハ財政ノ事務ニ原因シシテ議院ノ勢力強大ナルト衰弱ナルトハ亦タ主トシテ議院ノ財政事務ニ干涉スルノ如何ニ職由セサルハナシト

歐洲大陸諸國ノ憲法ニ規定スル財政ノ條款ハ概テ大同小異ニシテ其ノ實施ノ方法モ亦タ殆ト同一轍ニ出ルモノ、如シ尤モ英國ニ至リテハ大ニ異ナル處ロアリ蓋シ國態習慣ノ自然ニ然ラシムル處ナレハ各々其得失アルハ固ヨリ論ヲ俟タスト雖モ英國憲法ノ一種着實ナル處ロ世人ノ多ク感歎スル處ハ財賦ノ條款ニ在リ實ニ議院政治ノ鼻祖タルノ名ニ愧チスト云フヘシ普國日國ノ憲法モ亦タ世人ノ欽慕スルノ實チ空フセサルナリ故ニ余ハ本章ヲ論スルニ該リ力

メテ此ノ三個國ノ憲法ヲ參照セント欲スルナリ

第一款 賦財

第一 賦財ノ原則

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報酬ニ屬スル行政上ノ手数料及其他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

國用ヲ負擔スヘキ國庫ハ種々ノ源泉ヨリ集合スルモノナリト雖モ

其主要ナルモノハ租稅ニシテ國債ノ如キモ畢竟未來ノ租稅タルニ外ナラス其他行政上ノ手数料及ヒ國有財産ノ收獲若クハ賃料ノ如キ諸收入ハ只タ其ノ僅少ナル部分ナルニ過キス

左レハ租稅ハ國庫歲入ノ基本ニシテ國家經理上一日モ欠クヘカラサルモノナリト雖モ新クニ租稅ヲ設ケ人民ノ財源ニ負擔ヲ課セン

トスルニ當テ帝國議會ノ協贊ヲ經法律ヲ以テ定ムルハ立憲政體ノ國ニ於テ最モ緊要ナルトストニセン氏曰擅ニ租稅ヲ課徵スルノ

惡ムヘク恐ルヘキハ猶ホ陽ハニ人民ノ財産ヲ掠奪スルニ同シ因テ租稅ノ課徵ヲ官吏ノ私曲專斷ニ放置スルノ國ニ於テハ農商工ノ事

業ヲ首メトシ凡ソ人民ノ福祉名譽ノ緊要ナル原素ハ全ク泯滅ニ皈スヘシ租稅ノ一事ニ就キ擅制收斂ノ危險ナキヲハ洵ニ立憲政治ノ美事中ノ一ニシテ而モ最モ人民ニ切實ナル美事ナリト

而シテ國ノ爲メニ課徴スヘキ租税ノ議定權ヲ專任スルハ其ノ成立ノ性質上ニ於テ立法權ヲ以テ最モ適當ノモノナリトス蓋シ立法權ハ人民ノ代理者ヲ以テ組織スルカ故ニ施政權ノ過重ナル要求ニ對シテ有効ナル控制ヲ爲シ得ヘキ勢力ヲ有シ且ツ議員ハ人民ノ撰舉ニ係リ善ク國用ノ適度ヲ知り自ラ國民ノ負担ヲ分荷スレハナリロシイ氏民政論ニ曰政府ハ幾多ノ經費アルニアラサレハ維持スルヲ得ス隨テ租税ノ必要ナルハ論ヲ俟ダス凡ソ政府保護ノ一部分ヲ利用スルモノハ其保護ニ因テ獲タル資力ニ應シテ其ノ一部分ヲ讓出シ以テ護國保安ノ經費ヲ辨償スルコト當然ナリトス然レモ之ヲ支辨スルニ當テ人民ノ最モ多數ヲ得タル部分ノ承諾ヲ得ルハ當然ノコトニシテ之レヲ得ルコトハ直接ニ之ヲ人民ニ要ムルカ又ハ人民ノ自ラ撰舉シタル代理人ニ求ムルカ其孰レニスルモ可ナリ若シ人民ノ

承諾ヲ得ルコトナク官吏ノ權力ヲ以テ租税ヲ徵課スルヲ得ルモノトセハ國家ヲ經理スル所以ノ根據タル所有權ヲ侵奪シ且本來政府ノ存在スル目的ヲ湮滅スヘシト
我カ國此ノ原則ハ既ニ維新ノ際ニ於テ啓發シ立憲政体起立ノ詔ニ因テ確認セラレタルモノニシテ府縣會及ヒ町村會ヲ設ケテ此ノ原則ヲ實行セラレタルコト亦タ久シ然リト雖モ時運ノ熟セサル未タ中央經費ニ至テハ之レヲ實行スル能ハサリシニ今ヤ年去リ時來リテ此ノ原則ヲ中央經費ノ上ニ實行スルノ期モ將ニ近キニアラントス臣民タルモノ能ク其ノ利害ヲ究メ益々福祉ノ増進ヲ謀リ其慶ヲ空フセサランコト勉メサルヘカラサルナリ
國税ノ法ハ常定永久ノ法トスヘキヤ又ハ毎年更定ノ法トスヘキヤノ問題ニ付テハ各國其制ヲ異ニセリ普國憲法第百九條ニ曰現存ノ

租税ハ從前ノ如ク續テ之ヲ徵收スヘシ此憲法ニ反違セサル處ノ法典及別個ノ法令ハ法律ヲ以テ之レヲ廢セサル以上ハ依然之ヲ施行スヘシトアリ又曰國憲法第百十一條ニ曰國稅ノ法ハ每年之レヲ議定ストアリテ兩國ノ法制全ク相反シ普國ノ稅法ハ常定ニシテ毎年ノ變更ヲ要セスト雖日國ノ稅法ハ每年之レヲ議定セサルベカラサルナリ然レモ其ノ實際ニ至テハ何レモ毎年ノ歲入ヲ豫算ニ表記シテ國會ノ承諾ヲ要スルカ故ニ其ノ結果殆ト同一ニ歸宿ス又曰國ト雖トモ毎年一切ノ稅法ヲ悉ク改定スルニアラス惟タ單ニ直稅間稅ノ稅率及ヒ徵收ノ方法ヲ規定スル法律ハ憲法ニ從テ毎年議定スヘシト云フニ止テ實際更定ノ程式ヲ履行スルニ過キス然レモ必スシモ此ノ程式ヲ履行スルニアラサレハ一租稅ト雖モ之ヲ徵收スルトチ得ス即チ稅法ヲ常定トナスト否ラサルトノ差異茲点ニ在リト

知ルヘキナリ
英國ニ於テハ歲計法調制ノ程式及ヒ之レヲ議院ニ呈出シテ議定スルノ方法普日ノ兩國ト異ニシテ先ツ歲計ヲ二類ニ大別シテ第一類ハ常定不易ノ性質アル歲出即チ國債王室ノ歲供裁判官外交官ノ俸給國ノ名義ヲ以テ給與スル恩給及ヒ或ル官吏ノ俸給等ヲ支辨スル處ノ歲出ハ各特別ノ法令ヲ以テ定メタル不易歲入ト稱スルモノヲ以テ之レニ充ツ此ノ不易歲入ハ歲計中ノ大部分ヲ占メ其額極メテ巨大ナリト雖モ每年之レヲ更定スルコトナク全ク常定ノ法令ニ從テ永ク之ヲ收支シ毎年議定ノ歲計豫算法ト相混同セサルナリ若シ其ノ改正ヲ要スル片ハ特別ノ法律ヲ以テス是レ是等ノ歲入ハ素ト國約ニ基クモノト看做シタレハ議院ニ於テ若シ之ヲ拒絕シテ其ノ歲入ノ約務ヲ免カレント欲スルトキハ則チ英國政府ノ信用ヲ害スヘ

シトノ思慮ニ出テタルモノナリ又第二類ノ歲出入ハ毎年議院ノ議定ヲ經テ更定スヘキモノニシテ其額ニ毎年ノ増加ヲ免ガレサル經常若クハ臨時ノ經費及ヒ之レニ充ツヘキ歲入即チ課稅ノ額及第一類常定歲出入ノ過不足ノ處分法ノミニ限ルナリ

論者アリ曰租稅課徵ノ法ヲ毎年議定スルハ弊政ヲ匡正スルノ究極手段ナルヘシト雖厄斯ル手段ヲ施スルハ忽チ無政治ヲ招キ却テ藥石ヲ以テ其ノ身命ヲ亡ホスニ至ルヘシ蓋シ政府如何ニ變更アルモ到底歲入ヲ要セサルノ政府アルナシ然ルニ議院ハ毎年歲計豫算ヲ許否スルノ權利アルヲ以テ之レヲ都合能ク施行スルルハ弊政ヲ匡制スルノ着實手段ニ於テ既ニ十分ナリ今之レニ加フルニ毎年課稅ノ法律ヲ議定スルノ權ヲ兼有スルハ稍々過當ナルニ似タリ普國憲法ノ稅法ヲ常定ト爲セルハ此ノ意ニ基クモノナラント

其レ然リ稅法ヲ毎年議定スルハ實ニ憲法ニ違背ノ臣民ヲ擅制セントスル政府ノ苛虐ナル處置ヲ矯正スル究極手段ナリ固トヨリ制度ノ嚴ナル國ニ於テハ苛虐弊政ニ陷ルヲ殆ト絶無ナルヘシト雖厄若シ偶々斯ル場合ニ遭遇スルヲアリトセハ惟リ歲計豫算ヲ議定スルノミヲ以テ足レリトセサルヘシ何トナレハ税金ヲ有スル政府ハ擅ニ之ヲ濫費スルヲ猶ホ虐政ヲ施スト同一ナランヲ恐ルレハナリ此ノ場合ニ於テ租稅ヲ全ク拒ミテ稅法ヲ議定セス一應政府生存ノ道ヲ絶ツノ外他ニ其抵抗ニ打勝ツヲ得ヘキノ術ナカルヘシ(トニセシ氏)

要スルニ歲計法ヲ定ムルニ當テハ宜敷歲出入ニ動不動若クハ經常臨時ト云ヘルカ如キ區別ヲ立テ各々議決スル方法ヲ異ニシ務メテ他一般ノ政論ト歲計ノ審議トヲ混同セサラシメ徒ラニ歲計法ノ議定ヲ延滯シテ政府ノ財脈ヲ絶ツノ恐レナカラシメンヲ要スルナ

二百六十

リ各國未ダ幸ニ實際ニ在テハ斯ル有様ヲ呈シタルコトアラスト雖モ議員ハ抗爭ノ勢ニ乘シ政府ノ財脈ヲ絶タントスルノ口氣ヲ示シ政府ニ嚇迫シタルノ的例ハ各國ニ乏シカラサルナリ斯クノ如キハ固ヨリ情勢ノ已ムヲ得サルモノアリテ然ルヘシト雖モ元來財政上ヨリ政事ノ攻撃ヲ試ミントセハ凡百ノ政治悉ク財政ノ點ニ版着セシムルヲ得ヘケレハ其ノ害ノ波及スル處ヲ知ラサルヘシ歐州大陸諸國殊ニ政黨ヲ以テ内閣ヲ組織スルノ國ニ在テハ動モスレハ毎年歲計ノ法案ヲ議定スルノ機ニ乘シ他ノ政論ヲ喚起シテ輒チ二大權分立ノ權限ヲ僭越シ冥々ノ裏ニ於テ施政ヲ牽制シテ其ノ事務ニ干涉セントスルノ情狀アリ例ヘハ改進黨ヲ以テ内閣ヲ組織シタル場合ニ於テハ保守黨ノ議員ハ歲計ノ法案ヲ抗擊シテ遂ニ内閣ヲシテ改進黨ノ主義ヲ實行スル能ハサラシムルカ如シ斯クノ如キ弊害アル

ナ以テ荷蘭ノ根本法憲法ニ於テハ經常歲計臨時歲計ノ費途ヲ區別シ經常歲計ニハ十年間不變ノ税法ヲ用ヒタリ又獨逸聯邦歲計法ニ付テピスマルク公ハ豫算ニ二年間不變ノ法ヲ用ヒント主張シタルコトアリ是等ノ說ニ併スルニ一種特別ナル英國ノ歲計法ヲ參照セハ當ダニ財政上ノコトナラス二大權分立ノ上ニ於テモ亦タ悟ル處口鮮カナラサルヘキナリ

右ニ述ヘタル租税ノ内ニハ行政上ノ手数料其他ノ收納金ハ包含セサルヲ以テ是等ノモノニ關スル規定ハ法律ヲ以テセス施政權ニ於テ命令ヲ以テ定ムルナリ蓋シ行政上ノ手数料例ヘハ登記料郵便税ノ如キモノハ報酬トシテ徵收スルモノニシテ決シテ國民ニ負擔ヲ命ゼスル者ニアラス又官有物ノ賃貸料其他ノ收穫物若クハ物件等ノ賣價ヲ定メテ賣却スル如キ場合ニ於テ金額ヲ收納スルニ付テモ決

シテ人民ニ負擔ヲ命スルモノニアラサレハ之レヲ帝國議會ニ附シ
法律ヲ以テ定ムルニ及ハサルナリ

國債ハ既ニ述フルカ如ク未來ノ租稅ヲ以テ支拂フヘキモノナレハ
云ハ、租稅ノ前借リノ如キモノナリ又國庫ノ負擔トナルヘキ契約
例ヘハ某汽船會社ニ國庫ヨリ年々保護ヲ與ヘテ政府ノ用達ヲ命ス
ルカ如キ又ハ某鐵道會社ニ國庫ヨリ年々利息ノ保証ヲ許スカ如キ
契約ハ結マリ租稅ノ負擔ヲ増スモノナルカ故ニ帝國議會ノ協贊ヲ
經ヘキハ當然ノナリトス

普國憲法第百三條ニ曰國庫ノ爲メノ募債ハ法律ヲ以テスルニアラ
サレハ之ヲ爲ストヲ得ス國ノ負擔ニ關スル保証モ亦タ同シトアリ

第二 賦財原則ノ例外

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル
場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召

集スルヲ能ハサルトキハ勅命ニ依リ財政上必要ノ
處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提
出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

稅法ヲ定ムルハ前段ニ述ヘタル如ク帝國議會ノ協贊ヲ經法律ヲ以
テ定ムヘキガ一般ノ原則ナリ然リト雖モ活氣社會ノ狀態タル常ニ
一定不變ナル能ハス時トシテハ内憂外患其他ノ事變等ニ際シ國用
多端ヲ生シ通常ノ歲入ヲ以ツテハ補フニ足ラス當ニ非常稅ヲ徵課
スルニアラサレハ國家ノ急變ニ應スル能ハサルモ急ニ帝國議會ヲ
召集スルノ暇ナキコアルヘシ斯ル場合ニ於テ政府ハ勅令ヲ以テ新
稅法ヲ發布スル非常例外ノ權道ヲ有セサルヘカラス是レ本條ニ規
定スル處口ナリ

本條ニ關スル凡テノ説明ハ第八條ニ於テ述ヘタル處ト其ノ精神ヲ一ニスルヲ以テ全條ノ論疏ヲ參觀セハ自ラ明カナルヲ得ヘシ

第二款 豫算

第一 豫算ノ原則

第六十四條 國家ノ歳出歳入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ

豫算ノ欸項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル歳出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十九條 避クヘカヲサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

前款ニ於テ論シタル課税法ハ財源ヲ目的トシテ歳入ノ道ヲ開クモノニシテ此ノ歳入ヲ以テ何レノ歳出ニ遣ヒ拂フヤヲ定ムルモノニ

アラヌ故ニ地租稅所得稅家屋稅造酒稅ノ如キ稅法ヲ制定シ及ヒ其ノ稅率ヲ變更スルハ課稅ノ職分ナリトス反之豫算ハ事業ヲ目的トシテ歳入歳出ノ額ヲ定ムルモノトス故ニ豫算表ヲ一見スルハ一年中ノ政府ノ事業ノ大畧ヲ前知スルヲ得ヘキモノニシテ本年中ニ軍艦何艘ヲ造リ陸軍ヲ減シテ海軍ヲ擴張シ農業ノ獎勵ヲ擴張シテ工業ノ保護ヲ減ス甲省ノ事務ヲ細メテ乙省ノ事業ヲ張ルト云フヲ悉ク知ルヲ得ヘシ

凡ソ國家ノ隆遷變化ノ極マリナキト同時ニ政府ノ事業モ亦タ之レニ應シテ張弛興廢ナカルヘカラス政府ノ事業ニ變化アルト全時ニ亦タ之レト相牽連シテ其ノ神經トナルヘキ一國ノ財用モ年々一様ナルヲ得サルモノナレハ一回ヲ以テ數年間ノ歲計豫算ヲ確定スルハ遂ニ國資ニ過不足ヲ生シ其ノ實用ト相適行セス殊ニ毎年歲

計豫算ヲ議會ニ於テ議決スヘキモノトスルルハ施政權ヲシテ憲法上ノ權限ヲ確守セシムルニ強盛ナル方法ヲ與ヘ官吏タルモノ年毎ニ議院ノ信用ヲ得テ政務ノ經費ヲ支弁スルノ方法ヲ稟シルルハ自ラ信實公正ニ趣キ國民ノ權利ヲ尊重スルノ志操益々篤キニ至ルヘキモノナリ

歲計豫算表ハ會計法定ムル處ノ例規ニ從ヒ部門ヲ立テ款項ヲ區別シ互ニ相流用スヘカラサルモノナリ然レモ時トシテハ現ニ舉行シタル處ノ事業ノ實費豫算ヲ以テ定メタル費額ニ超過スルコトナキコトアラス此ノ場合ニ於テ他ノ款項ノ費川ヲ以テ流用センカ法律ノ許サ、ルチ如何セン議院ノ議決ヲ仰カンカ帝國議會既ニ閉會ノ后チニ在リ僅々タル不足額ノ議決ヲ要スル爲メ之レヲ臨時ニ召集スルハ實際ノ得失ヲ償フ能ハサルノミナラス時トシテハ實際召集スル

ヲ待ツ能ハサルノ場合ナシトセス然ラハ他ニ良策ヲ求メサルヘカラス之レ第六十九條ニ於テ之レヲ規定シ一時豫備費ヲ以テ之レヲ支辨シ次期ノ開會ニ於テ之レヲ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ得ヘキ旨ヲ示シタル所ナリ

普國憲法第九十四條ニ曰國ノ歲出入ハ之レヲ豫算シテ表上ニ記載スヘシ此ノ豫算表ハ毎年之レヲ定ムルチ要ストアリ又第四百四條ニ曰豫算表記載ノ費用額ヲ超過スルコトアルルハ必ス議院ノ承可ヲ得ルチ要ス云々トアリ

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

元來法案ハ之レヲ前キニ衆議院ニ議決セシムルモ貴族院ニ議決セシムルモ政府ノ好ム處ニ隨フヘシト雖モ歲計豫算ノ法案ニ至リテハ必ス是ヲ前ニ衆議院ニ提出シ貴族院ニ先立ツテ決議セシムヘシ

ト規定セリ蓋シ衆議院ハ其性質庶民ノ代理者タルヲ以テ中等以下ノ人民ニハ最モ負担ニ難ンスル租税ハ先ツ此ノ院ニテ議決セシムルヲ以テ允當ナリトスレハナリ

會計ノ法案ヲ先キニ衆議院ニ提出スヘシトノ主義ハ佛國白國等ノ憲法ニ採用スル處ニシテ英國ノ主義ニ倣ヒタルモノトス

本條ノ規定ハ凡テ歲計豫算ハ悉ク衆議院ニテ先キニ議決スヘキヲ要スト思做スヘカラス何トナレハ若シ斯ク決スルハ彼ノ貴族院ニモ同様ニ提案及ヒ修正ノ權ヲ與ヘタリト雖モ此ノ權利ハ痛ク減殺セラレテ殆ト有名無實ニ飯宿シ毫モ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至レハナリ故ニ貴族院ハ既ニ衆議院ノ議決ヲ經テ貴族院ニ移サレタル法案ニ自ラ修正ヲ加ヘ衆議院ニ先立テ其ノ修正案ヲ議決スルヲ得ヘキナリ

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及

法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ消滅スルコトヲ得ス

政黨盛ニ樹立シ政論ノ熾ニ隆起スルニ至レハ議院ハ歲計法案ノ討議上政府ノ運動ヲ撿束シ動モスレハ行政ノ事務全ク行フ能ハサルニ至ルノ恐レアルモノナルコトハ余カ上款ニ於テ詳述シタル所ナリ若シ果シテ斯クノ如クナリトセハ政府ノ維持裁判所ノ事務若クハ帝國議會ノ召集ノ如キ憲法上ノ大權ニ基ケル歳費及ヒ法律ノ結果トシテ是非ナカルヘカラサル費用例ヘハ登記法ニ隨テ生スル處ノ登記役所費用ノ如キ又國債ノ利息償却金恩給ノ年金ノ如キ政

府ノ義務ニ屬スル費用ト雖モ遂ニ之レヲ支辨スル能ハサルカ如キ不都合ヲ生スルコトアリ抑々我カ國ニ於テハ斯クノ如キ無謀過激ノヲヲ議決スルノ恐レハ萬アルヘキニアラサレモ他日何如ナル時世ノ生スルヤ知ルヘカラサレハ斯ル立法權ノ爲メ施政權ノ事務ニ干渉スルカ如キ事ハ豫メ防キ置カサルヘカラサルヲ以テ本條ハ政府ニ於テ是非ナカルヘカラサル歳出入ニ付テハ必ズ政府ノ同意アルニアラサレハ之レヲ廢却スルヲ得ストシ以テ二大權ノ衡平ヲ保タント欲シタルモノトス

實際欠クヘカラサル歳入ヲ廢セントスルコト付テハ政府ニ於テ同意スヘキ云ハレハアラサレモ予カ以上ニ述ヘタル如キ極端ノ場合ニテ廢却又ハ削減スルコトセシハ二大權ノ運轉圓滑ニシテ容易ニ軋轉ヲ生セサルノ結果ヲ生スヘシ

第二 豫算原則ノ例外

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

歳計豫算ハ上段ニ於テ述ヘタルカ如ク前年ノ議會ニ於テ之レヲ議決シ其ノ豫算議決ノ効ハ一ケ年限リノモノトス(第六十四條及ヒ會計法第五條)是レ即チ原則ナリトス然ルニ此ノ原則ニハ二ケノ例外アリ

第一、豫算ヲ毎年議定セス政府ニ於テ豫メ定メタル年限間繼續

費トシテ數年ノ豫算ヲ議決セシムル場合(第六十八條)

第二 該年度ノ始メニ豫算ヲ議定セシメスシテ前年度ノ豫算ヲ其儘施行スル場合(第七十一條)

右第一ノ例外ハ豫算ハ毎年一年間分ニ就キ議定スト云ヘル原則ノ例外ニシテ便詭上甚シキ弊害ノ生スル恐レナキ場合ニ於テ行フモノナリ例ヘハ政府ハ國會議事堂ヲ建築セントスルニ當リ少ナシヒ五ヶ年間ノ日月ヲ要スヘシト見込ムルハ一ヶ年間幾許ノ費用ヲ要スルヤチ豫定シ五ヶ年間ノ繼續費用ヲ豫メ議定セシムルカ如キ其ノ一例ナリトス
又第二ノ例外ハ毎年ノ豫算ハ該年度ノ初メニ於テ議決スト云ヘル原則ノ例外ニシテ事實止ムヲ得サル場合ニ於テ行フモノニシテ例ヘハ議院ニ於テ議論紛出シ又ハ議事ノ中途ニテ更ニ委員ニ命ジテ

詳細ノ調査ヲ要スルヲ發見シ會期中遂ニ議決スル能ハサリシ場合又ハ内亂ノ如キ國事ノ繁忙ナルカ故カ若クハ或ル一部分ノ事務ニ就キ調査未ダ間ニ合ハサルカ如キ種々ノ原因ヨリシテ豫算成立ニ至ラサル場合ナキニアラス如斯場合ニ於テハ豫算未ダ議決セスト雖モ國家ノ行政一日モ停止スヘキニアラサレハ止ムヲ得ス例外トシテ前年度ノ歲計豫算ヲ執行スルモノトセリ
右等ノ例外ハ固ヨリ深キ理由在テ存スルト云フコアラサレモ苟モ活動社會ノ事務單ニ原則ノミヲ墨守シテ更ニ應變ノ活法ナシトスル時ハ終ニ便否ノ情實ニ應スル能ハス其甚ダシキニ至テハ原則行詰テ大害ヲ惹キ起ス者ナレハ狹隘ノ範圍内ニ於テ例外ヲ示シタルモノトス

第三款 決算

第七十二條 國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計檢査院之ヲ檢査確定シ政府ハ其ノ檢査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計檢査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

本條ハ施政權カ立法權ニ對シテ會計決算ノ報告ヲ爲スニ付テノ證明方法ヲ定メタルモノナリ

凡テ代理法ノ原則ニ於テ計算報告ト云フモノハ必要欠クヘカラサルモノニシテ俗ニモ金錢ニ親子ナシト云ヘル如ク總テ金錢上ノ帳面方ハ成ル丈ケ明カナル上ニモ明カニシテ置カサレハ百端ノヨリ人ノ疑ヒヲ受ケ已レノ信用ヲ地ニ墜ス事少ナカラス例ヘハ余他人ノ依頼ヲ受ケテ家屋ノ建築方ヲ理事シタリトセンニ建築落成ノ上ハ本人ヨリ受取リタル金ハ何某ニ幾何拂フテ何々ニ幾程入り幾

圓ノ過不足アリシト云フヲ委細ニ勘定シテ引渡サ、レハ本人ノ疑ヲ受クルノミナラス余カ立替金ヲ取戻スニ付テモ不都合ナリ故ニ他日民法ノ頒布アラハ必ス代理法ノ編ニ於テ計算ト云フヲ嚴重ニ規定シアルヘキナリ政府ノ事業ニ就テモ亦タ之レト異ナラス一年ノ始メニ於テ豫算ヲ立テ本年中ニハ是レ々々ノ事業ヲ行フタメニ是レ丈ケノ國費ヲ要スト云フヲ請求シタル政府ハ必ス復タ一年ノ終リニ至リ是レ丈ケノ仕事ヲ致シテ是レ丈ケノ金ヲ費シタリト云フ事ヲ議院ニ報告シテ仕切り勘定ヲ爲サ、ルヘカラス是レ即チ決算報告ナリ

政府カ決算報告ヲ爲サノニハ必ス其ノ買入レタリト云フ物件ヤ拵ヘタリト云ヘル事業ヲ一々議院ニ提示シ議院モ亦ク之レヲ檢査シテ其ノ此レヲ買入レ若クハ拵ユルニハ果シテ是レ丈ケノ金ヲ要スル

モノナルヤ否ヤ又果シテ是レ丈ケノ金ヲ拂フタル証據アルヤ否ヤ
 残り金ハ幾何アリテ帳簿ニハ間違ヒナキヤヲ逐一調査シテ受取ラ
 サルヘカラス然リト雖モ帝國議會ハ僅々三ヶ月ノ期限内ニ於テ全
 國終年ノ万務ヲ議決セサルヘカラサルモノナレハ到底自ラ之レヲ
 調査スルヲ能ハサルモノナリ故ニ何レノ邦國ニ於テモ會計検査院
 ト云ヘル検査事務ニ専門ナル官廳ヲ設ケテ之レヲ検査セシメ議院
 ハ其ノ検査院ノ検査報告書ノ信用ニ據テ決算報告ヲ受理スルヲト
 セリ本邦ニ於テモ亦タ此ノ例ニ倣ヒ豫算ハ會計検査院ノ検査確定
 ノ報告ト俱ニ帝國議會ニ提出スヘシト定メラレタリ

普國憲法第四百四條二項三項ニ曰「決算ハ會計検査院ニ於テ検査シ同
 院ノ備考案ヲ附シテ議院ニ出シ議院之ヲ完結ス」○會計検査院ノ章

程ハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ定ムトアリテ本條規定スル處ト異文同
 意ナリトス

本條第二項ハ會計検査院ノ官制ニ關スルヲ規定セリ凡ソ財用ハ
 万業ノ神經ニシテ万業ノ存スル處財用ノ領地ナラサルハアラサル
 ナリ既ニ政府ノ事業ニ就テ立法行政司法ノ三機關ヲ必要ナリトセ
 ハ財用會計ノ事務ニ付テモ亦タ立法會計行政會計裁判會計ノ三機
 關ナカルヘカラス而シテ立法會計トハ豫算ヲ議定スル事ニシテ議
 院之レヲ掌リ行政會計ハ大小官吏ノ租稅徵收ヨリ支出決算ニ至ル
 マテノ實務ニシテ行政官吏之ヲ掌リ裁判會計トハ行政會計ノ成績
 ヲ検査確定スルモノニシテ會計検査院之ヲ掌ルモノナリ故ニ會計
 検査院ハ政府臺所ノ取締役トテモ云フヘキ惡マレ役ニシテ臺所ニ
 在テハ鍋釜ノ數ヨリ肴野菜ノ買入方ハ申スニ及ハス米櫃ノ底マテ

目ヲ配ラサルヘカラサルト全シク國庫及各官廳ノ金錢物品ノ會計
 官有財産ノ數ハ申スニ及ハス總テ政府ノ財用ニ關スル事柄ヲ檢査
 セサルヘカラサラル處ロノ惡マレ役ナレハ裁判官ト全シク余程其獨
 立ヲ鞏固ニセサルヘカラス故ニ諸外國ニ於テハ檢査官ヲ終身官ト
 シ獨立ノ位置ヲ與ヘ他ノ行政官ノ都合ヲ以テ位置ヲ進退セラル、
 ノ恐レナキヲ圖リ其ノ官制ノ如キモ法律ヲ以テ定ムルトスル
 ナ以テ例トス

會計檢査院ハ惟リ直接ニ會計上ノ事務ヲ監査スルノミナラス間接
 ニ金幣ノ作用ニ屬スル政府ノ事業ニ就テモ可否ノ意見ヲ有スル片
 ハ政府若クハ議院ニ對シテ建議スルコト當然ニシテ且必要ノ義務ナ
 リトス故ニ政府ニ於テ着手シタル土木工事ノ如キ今日ノ國力ト時
 情トニ於テ之ヲ不急ナリト認ムル片ハ前後左右ノ事實ヲ具シテ建

議セサルヘカラサラルナリ

我カ國ニ於テ會計檢査院ノ官制ハ明治十九年四月十九日勅令第二
 十号ヲ以テ改定セラレタリ該官制ニ據レハ本院ハ政府ノ會計ヲ檢
 査スル處トストアリテ其ノ細目ハ如何ト云フニ國庫及ヒ各廳金錢
 物品ノ會計官有財産ノ増減作業資本別種金保管金抵當物品ノ會計
 ナ審査判定シ歲出入ノ豫算報告書ニ對シ其當否ヲ証明スルコトヲ掌
 ルモノトストアリ

會計官吏ノ責任ハ檢査院ニ於テ其ノ會計ヲ正當ナリト判定シテ認
 可ヲ得タル時ニアラサレハ消滅セサルモノナリ蓋シ一國ノ秩序ノ
 紊乱スルハ多クハ會計ノ不整頓ニ基クモノニシテ行政上ノ整頓ニ
 於テ會計ノ確實ナルヘキハ最モ主要ナルモノナレハナリ
 會計檢査院ノ施政上ニ必要ニシテ其獨立ノ鞏固ナラサルヘカラサ

ルモノナルヲ以上述フル處ノ如キモノナルカ故ニ該院ノ組織權限ノ如キハ施政官ノ定ムル處ニ放任スヘカラサルヲ宛モ裁判所ノ構成規則ニ於ケルト同一ナリ故ニ本條第二項ニ於テハ之レヲ立法權ニ委テ法律ヲ以テ定ムルヲトシ施政權ハ一切之レニ干涉スルヲ許サ、ルナリ

第四款 皇室經費

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來增額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協賛ヲ要セス

皇室經費ヲ以テ毎年豫算ヲ立テ議會ノ議決ニ附セス全ク豫算定則ノ外ニ置クヲ付テハ各國殆ト其ノ揆チ一ニスルモノ、如シマカレト氏曰施政權ハ凡テ公費ノ爲メニ必用ナル議院ノ議定ニ因テ人

民ニ依頼シ人民ハ恰モ囊袋ノ緒ヲ保持スルカ如クナルヲ要スト雖モ皇室ノ費用ノ爲メ毎年國君ヲシテ臣民ノ好意ニ依頼スルノ念ヲ免カレシムルヲ亦タ適當ニシテ且ツ必要ナリト民權主義ヲ以テ有名ナル白耳義帝國憲法ニ於テハ皇室經費ヲ皇帝一世間常定不變ノ法トシ踐祚ノ時ニ集合シタル議員ニ於テ新君ト第一回議院トノ間ニ存スル尊敬ト親愛トヲ以テ議定スヘキトセリ之レヲ解釋スルモノ、曰歲供ノ制ハ二ケノ意思ニ基クモノトス凡ソ官吏ハ國家ヨリ俸給ヲ受クルモノトス國君ハ人民ノ上長ニシテ邦國第一等ノ官位ナリ故ニ此ノ地位ト威嚴トニ對シハ之ヲ奉戴スル臣民ノ富力ニ相當スル光榮ヲ保タサルヘカラス且ツ國君ハ其ノ費用ニ付テハ全ク獨立不羈ナラサル可ラサルナリ然ルニ皇室經費ヲ各代一定不動トスルキハ遂ニハ臣民ノ富力ト帝王ノ光榮トハ

相正適セサルニ至ルノミナラス一代ノ間ニ於テ宮殿壞破スル等ノ故ヲ以テ先帝代ノ宮殿領地等今上代ニ於テ要スル王位ノ榮華ト相當セサルコトアルヘシ故ニ踐祚ノ時當時ノ議院ニ於テ其情況ヲ視察シテ適當ニ定メ得ヘキヲ要スルナリ云々ト
我カ皇室ノ經費ハ之レヲ萬世不變ノモノトスルモ國家ノ隆遷ト帝王ノ光榮トニ依テ經費ノ増額ヲ要スルコトアリトスルトキハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ何時ニテモ之ヲ増額スルコトヲ得ルトセリ是レ甚タ允當ナル規定ナリト云ハサルヘカラサルナリ

第七章 補則

第七十三條 將來憲法ノ條規ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其總員三分ノ二以上

出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非レハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用非タルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵守ノ効力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ由ル
以上論明ヲ要セズ

2220
105

36018

頁	行	
十二	四	主權ニハ主權ノ
十七	二	政、党、ハ、政、体、
全	十	頭、出、ハ、顯、出、
全	十二	衆、民、ハ、庶、民、
二十	九	利、害、ハ、弊、害、
二十四	六	五、號、文、字、ハ、四、號、文、字、
三十八	十一	務、ハ、ハ、務、ハ、
四十	十	蹂、躪、ハ、蹂、躪、
四十四	九	文、制、官、ハ、文、部、官、
五十	九	命、令、ヲ、ノ、下、發、シ、又、ハ、ノ、四、字、ヲ、脱、ス、
六十一	十一	統、師、ハ、統、帥、

購
入



七十三 一
 全 十二
 七十八 三
 七十九 十
 八十 十
 九十二 三
 百 六
 百六 五
 百三十一 六
 百三十五 二
 百四十一 七
 百五十一 八

ハナレハハ時ナレハ
 大赦ノ下特赦ノ二字ヲ脱ス
 犯罰者ハ犯罪者
 再犯ヲ下以テノ二字ヲ脱ス
 赦免ヲノテハ衍
 公權其ノ其ハ衍
 至テハハ至リ
 時ニハ特ニ
 用用ハ公用
 條規ノハ條規ハ
 特角ハ特角
 濻漢ハ濻漢

百五十九 五
 全 六
 百六十三 四
 百七十二 三
 二百一 九
 二百三 八
 二百九 三
 二百十三 四
 二百十五 七
 二百十六 二
 二百十八 八
 二百二十四 九

行スヘシハ行フヘシ
 五號文字ハ四號文字
 決議ハ議決
 現行ハ現ニ
 理ナリハ理ナク
 保主ハ保守
 輔ケタル輔クル
 凡テ談判ハ凡テ議院
 ヘキナドハヘキヤト
 立法權ニモノ下施政權ノ三字ヲ脱ス
 收者ハ權者
 排付ハ排斥

二百三十一四
全 十一
二百三十三一
二百三十四七
二百三十六四
二百五十三
二百五十二二

ハ、ミ、ノ、下、ト、ノ、一、字、ヲ、脱、ス
我、國、モ、ハ、下、亦、タ、ノ、二、字、ヲ、脱、ス
爲、ハ、歸、
メ、ニ、ノ、下、ハ、チ、脱、ス
切、合、ハ、場、合
ハ、ハ、地、ニ
則、ハ、財、



明治二十二年四月五日印刷
全 年全月九日出版

(定價金六拾五錢)

長崎縣平民

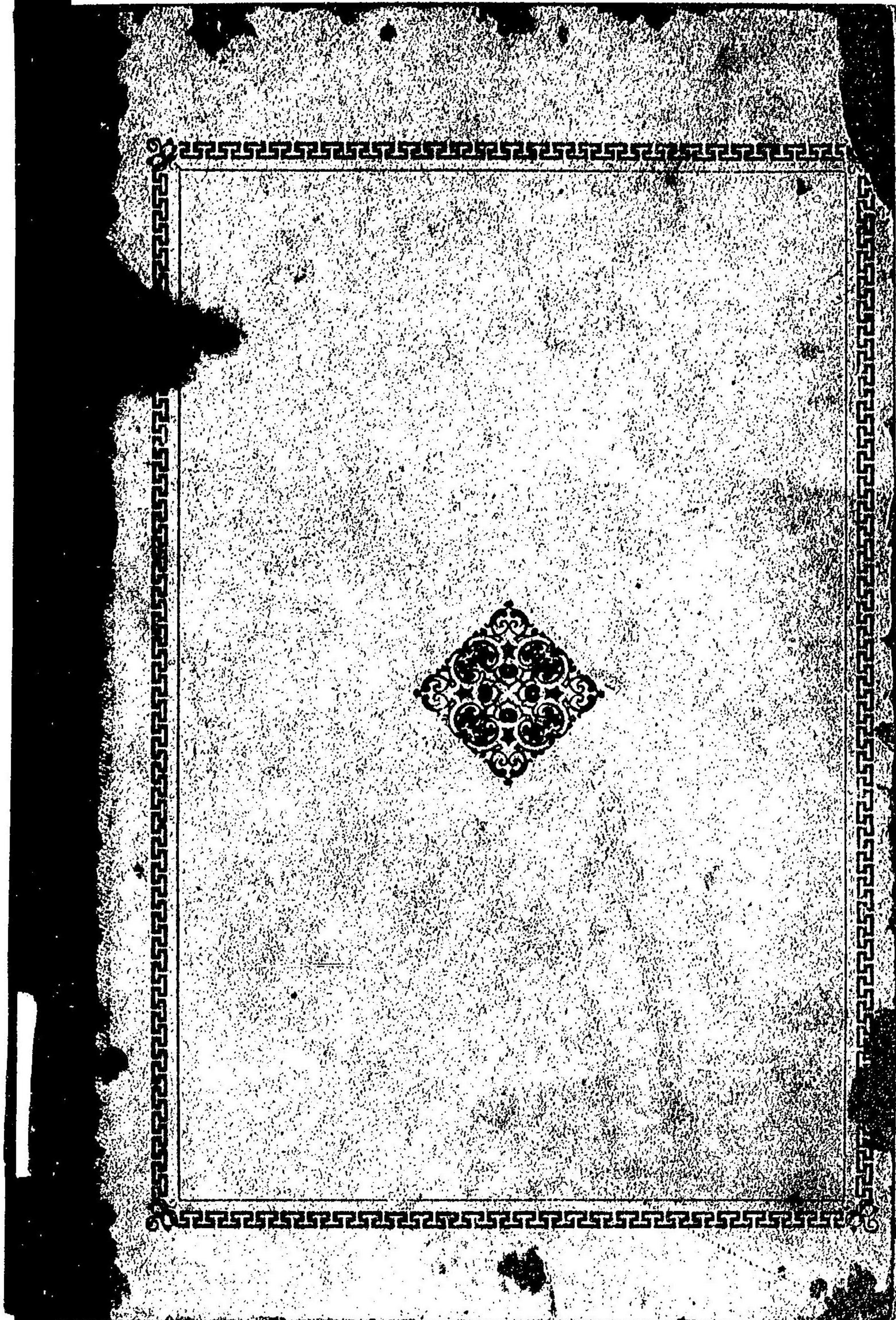


著者ノ認印キモハノ僞版也

著者兼 發行所
印刷者 發行所
大賣捌所

樋口保
東京神田區袋町十六番地
富田練治
神田區錦町一丁目十番地
丸善書店
東京日本橋區通三丁目
明法堂
東京神田區表神保町
盛春堂
東京本郷區元富士町
森半之助
東京芝區柴井町





2320
105

031691-000-9

特14-133

大日本帝国憲法要論

樋口 保/著

M22

BBE-0318

